



IceWall Remote Configuration Manager

Version 4.0

マニュアル

日本ヒューレット・パカード株式会社
2010 年 8 月

Printed in Japan

HP Part No. B1531-97406

Rev.100803A

ご注意

本書に記載されました内容は、予告なしに変更することがあります。

本書は内容について細心の注意をもって作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら当社までお知らせください。

当社は、本書に記載されている誤り、あるいは備品、パフォーマンス、または本書の使用に関連して発生する偶然または必然的な損傷について責任は負いかねます。

本書の著作権は Hewlett-Packard Development Company, L.P. に帰属します。本書の一部あるいは全部についての無断複製、転載を禁じます。

本製品パッケージとして提供した本マニュアル、CD-ROM 等の媒体は本製品用だけにお使いください。

IceWall はヒューレット・パッカー社社の商標です。

Adobe は Adobe Systems Incorporated の米国及びその他の国における登録商標または商標です。

Java は、米国 Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

— 目次 —

1 はじめに	1
2 概要	2
2.1 機能	2
2.2 基本構成	2
2.3 Remote Configuration Manager 4.0 で提供される機能の概要	3
2.3.1 認証モジュールの管理	3
2.3.2 認証モジュールの起動と停止、設定ファイルの再読み込み	3
2.3.3 複数サーバーに配置されたフォワーダー設定ファイルの一元管理	4
2.3.4 ファイルのバックアップ	4
2.3.5 ログの参照	4
2.3.6 バージョン情報の表示	4
2.3.7 任意の HP-UX または Linux サーバーコマンドの実行と結果の取得	4
2.3.8 管理者モードとオペレーターモード	4
3 動作環境	5
3.1 RCFGAgent	5
3.2 RCFGManager	5
4 制限事項	6
5 注意事項	7
6 インストール	8
6.1 RCFGAgent のインストール	8
6.2 RCFGManager のインストール	9
7 RCFGAgent の設定	12
7.1 自動起動の設定	12
7.1.1 /etc/services の設定	12
7.1.2 inetd/xinetd の設定	12
7.1.3 LISTEN 状態の確認	15
7.2 設定ファイル	16
7.2.1 RCFGAgent 設定ファイル (iwrcmagent.conf)	16
8 RCFGManager の設定	17
8.1 管理者モードとオペレーターモード	17
8.2 RCFGManager を管理者モードで動作させる設定	17
8.3 RCFGManager をオペレーターモードで動作させる設定	17
8.4 RCFGManager をオペレーターモードで動作させる設定に関する注意点	18
9 バージョン情報の確認方法	19
9.1 RCFGAgent のバージョン情報の確認方法	19
9.2 RCFGManager のバージョン情報の確認方法	20
10 アンインストール	21
10.1 RCFGAgent のアンインストール	21
10.1.1 /etc/services の設定削除	21
10.1.2 inetd/xinetd の設定削除	21
10.1.3 ファイルの削除	21
10.2 RCFGManager のアンインストール	22

11 RCFGManager の画面	23
11.1 画面の説明	23
11.1.1 ツリービュー	23
11.1.2 プロパティビュー	23
11.1.3 ルートノード	24
11.1.4 フォルダーアイテム	24
11.1.5 ファイルアイテム	24
11.1.6 コマンドアイテム	24
12 RCFGManager の操作	25
12.1 RCFGManager の起動	25
12.1.1 管理者モードでの RCFGManager の起動	25
12.1.2 オペレーターモードでの RCFGManager の起動	26
12.2 設定の読み込み	26
12.3 設定の保存	27
12.4 設定に名前をつけて保存	27
12.5 終了	27
12.6 バージョン情報の表示	27
12.7 エージェントキーの設定	27
12.8 フォルダーアイテムの新規作成	28
12.9 ファイルアイテムの新規作成	28
12.10 コマンドアイテムの新規作成	30
12.11 アイテムの削除	31
12.12 ファイルアイテムの表示	31
12.13 ファイルの表示	32
12.14 ファイルの編集	33
12.15 コマンドアイテム表示	34
12.16 コマンドの実行	34
13 RCFGAgent のリファレンス	35
13.1 RCFGAgent 設定ファイル (iwrcmagent.conf)	36
LOGFILE	37
LOGLEVEL	38
ALLOWDIR	39
DENYDIR	40
AGENTKEY	41
14 RCFGManager のリファレンス	42
14.1 RCM 設定ファイル (IWRCM.ini)	43
ERROR	44
TRACE	45
CHARSET	46
CONNECTIONTIMEOUT	47
14.2 設定 XML ファイル	48
<group> (ルートノード)	49
<group> (フォルダーアイテム)	50
<item> (ファイルアイテム)	51
<item> (コマンドアイテム)	53

15 ログメッセージ一覧	55
15.1 RCFGAgent のログメッセージ一覧	55
15.2 RCFGManager のログメッセージ一覧	63

1 はじめに

IceWall Remote Configuration Manager（これ以降は Remote Configuration Manager と記述）は、Windows サーバーから IceWall SSO の設定および管理をするための GUI ツールです。

本書では、Remote Configuration Manager の概要、導入方法、設定方法、およびリリースについて記述します。

2 概要

Remote Configuration Manager の概要について記述します。

2.1 機能

Remote Configuration Manager は、Windows Server から IceWall SSO の設定や稼動状態の確認、任意の HP-UX または Linux サーバーコマンドの実行と結果の表示を行うツールです。次に示す項目の操作ができます。

- IceWall SSO の設定
- 認証モジュールの起動と停止、リロード
- 認証モジュール稼動状態の確認
- 設定ファイルの閲覧、編集と配布
- 複数サーバーに配置されたフォワード設定ファイルの一元管理
- ログの取得
- バージョン情報の取得
- 任意の HP-UX または Linux サーバーコマンドの実行と結果の表示
- すべての操作を行うことができる管理者モードと、操作を制限したオペレーターモードによる、ユーザ権限に基づく操作範囲の特定

2.2 基本構成

Remote Configuration Manager は、マネージャーモジュール（これ以降は RCFGManager と記述）とエージェントモジュール（これ以降は RCFGAgent と記述）の 2 種類のモジュールにより構成されます。

● RCFGManager

Windows Server 上で動作する Windows アプリケーションです。

リモートサーバーに存在する設定ファイルを Windows Server で閲覧、編集したり、リモートサーバー上でコマンド実行を行ったりするためのインターフェースを提供します。

これらの機能を実現するため、リモートサーバーに配置された RCFGAgent に対して処理要求を行います。

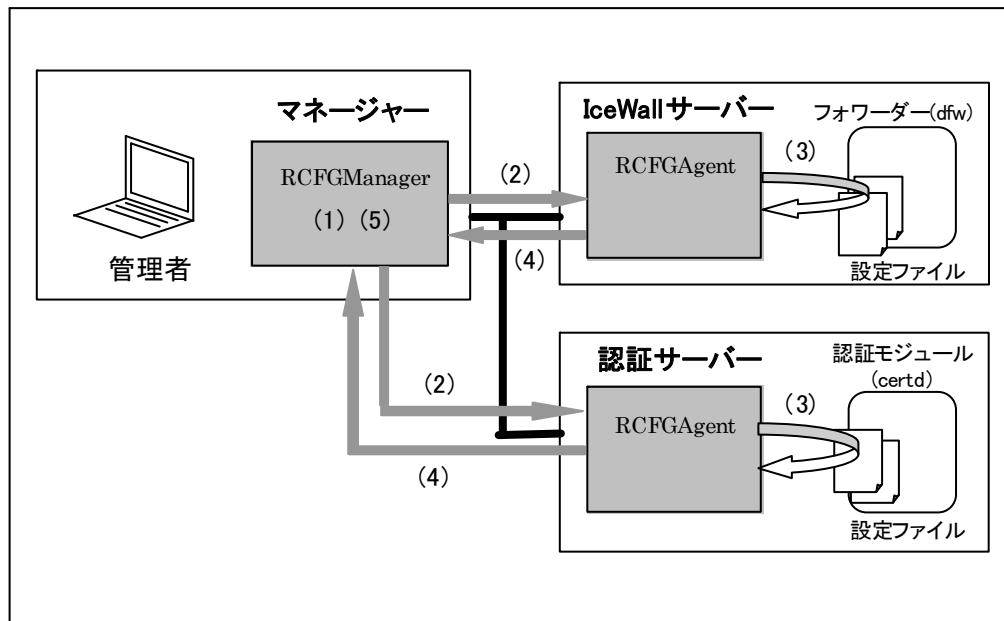
● RCFGAgent

HP-UX または Linux サーバー上に配置され、inetd/xinetd 配下で動作します。

RCFGManager からの要求を受けて、ファイル取得、ファイル更新、コマンド実行などの処理を行い、結果を RCFGManager に返します。

【処理フロー】

Remote Configuration Manager が提供するモジュールは、図内の網掛け部分です。



- (1) 管理者が RCFGManager 上で操作を行います。
- (2) RCFGManager は行われた操作に基づき、指定されたサーバーの RCFGAgent に対してリクエストを送信します。
- (3) RCFGAgent はリクエストを受信し、下記のような処理を実行します。
 - ・ ファイルの存在確認
 - ・ ファイル情報の取得
 - ・ ファイルのバックアップの作成と更新
 - ・ 認証モジュール起動
 - ・ 認証モジュール停止
 - ・ 認証モジュールリロードの実行
 - ・ バージョン情報の取得
 - ・ 任意の HP-UX または Linux サーバーコマンドの実行と結果の取得
- (4) RCFGAgent は処理結果を RCFGManager に返します。
- (5) RCFGManager は画面に処理結果を表示します。

2.3 Remote Configuration Manager 4.0 で提供される機能の概要

本バージョンの Remote Configuration Manager で提供される機能を記述します。

2.3.1 認証モジュールの管理

HP-UX または Linux コマンドを通して、認証モジュールの稼動状態の確認、各種設定の参照と変更ができます。

2.3.2 認証モジュールの起動と停止、設定ファイルの再読み込み

認証モジュールに起動、停止、設定ファイルの再読み込みをさせることができます。

2.3.3 複数サーバーに配置されたフォワーダー設定ファイルの一元管理

複数のサーバーに同一の設定ファイルが存在する場合、代表のサーバーから設定ファイルを取得して編集し、全サーバーに配布することで、全サーバーで設定の同期を取ることができます。また編集を行わず、代表のサーバーから設定ファイルを取得して参照だけ行うこともできます。

2.3.4 ファイルのバックアップ

RCFGManager は各種ファイルを各サーバーへ配布する際にバックアップを行います。ファイルのサーバーへの配布時はすべてのファイルが自動的にバックアップの対象となります。

2.3.5 ログの参照

フォワーダー、認証モジュールのログを参照できます。

2.3.6 バージョン情報の表示

RCFGManager が管理するフォワーダー、認証モジュールのバージョン情報を参照することができます。

2.3.7 任意の HP-UX または Linux サーバーコマンドの実行と結果の取得

RCFGManager が管理する HP-UX または Linux サーバー上で、任意のコマンドの実行と結果の取得ができます。

2.3.8 管理者モードとオペレーターモード

Remote Configuration Manager には、管理者モードとオペレーターモードの 2 種類の動作モードがあります。管理者モードではすべての操作が可能です。オペレーターモードでは、管理者が設定した範囲でのみ、操作が可能です。

3 動作環境

Remote Configuration Manager の動作環境は以下のとおりです。

3.1 RCFGAgent

- サーバー
 - 【HP-UX】 HP Integrity サーバー
 - 【Linux】 HP ProLiant またはそれ相当の互換機（HP 推奨の機種）

- OS
 - 【HP-UX】
HP-UX 11i v3 (Itanium) *1

*1 2009 年 3 月時点の Standard Patch Bundles 以降が導入されている必要があります。

【Linux】
Red Hat Enterprise Linux 5.4(x86 64bit) 以降 *2

*2 NSA Security-Enhanced Linux (SELinux) を有効にした環境での動作は保証されません。

- IceWall SSO (dfw、certd)
IceWall SSO Version 10.0 以降

3.2 RCFGManager

- サーバー
HP ProLiant またはそれ相当の互換機（HP 推奨の機種）
- OS
Windows Server 2008 R2
.NET Framework version 3.5.1
メモリ 2G バイト以上
ディスクの空き容量 500M バイト以上

これ以降、本書では以下の用語で記述します。

用語	対応プロダクト
IceWall SSO	IceWall SSO Version 10.0 以降

4 制限事項

本バージョンの制限事項は下記のとおりです。

- Remote Configuration Manager で管理できるサーバーの数は 4 台までです。
- コマンドアイテムで「tail -f」や「top」のように継続的に実行され終了せず、結果を返すコマンドを使用しないでください。
- コマンドアイテムで「more」のように入力を受け付けるコマンドを使用しないでください。
- コマンドアイテムでは、システムに影響をおよぼすコマンドを指定し、実行することが可能です。コマンドアイテムを作成する際、管理者は実行されるコマンドの種類に十分な注意を払ってください。
- Remote Configuration Manager を使用するにあたり、事前に IceWall SSO が導入されている必要があります。Remote Configuration Manager ではフォワーダーや認証モジュールのインストール、初期導入設定を行うことはできません。
- Remote Configuration Manager が扱うファイルサイズの上限は 100 メガバイトです。100 メガバイトを超えるサイズのファイルを扱わないでください。また、100 メガバイトを超える結果を返すコマンドを実行しないでください。
- Remote Configuration Manager でファイルアイテムを作成する際には、HP-UX または Linux サーバー上に実際に存在するファイルを指定してください。
- Remote Configuration Manager で作成するファイルアイテムで、ファイル名もしくはパスにマルチバイト文字を含むファイルを指定しないでください。
- Remote Configuration Manager で作成するコマンドアイテムで、マルチバイト文字を含むコマンドを指定しないでください。
- Remote Configuration Manager で作成するコマンドアイテムに「;」、「&」、「||」、「&&」を使用しないでください。
- Remote Configuration Manager で作成できるフォルダーアイテム、ファイルアイテム、コマンドアイテムの総数は最大で 1000 個までです。

5 注意事項

本バージョンの注意事項は下記のとおりです。

- Remote Configuration Manager の導入と運用には、Windows Server 2008 R2、HP-UX、Linux、IceWall SSO の知識が必要です。
- 認証モジュールが設定ファイルの再読み込み（リロード）を行っている間は、認証や認可処理が一時的に停止することがあります。そのため、Remote Configuration Manager より認証モジュールのリロード機能を使用する場合には以下の点に注意してください。
 - ・ リクエストの少ない時間帯（リクエストがない状態を推奨）で使用する。
 - ・ 最低 1 分間の間隔を開けて使用する。
- Remote Configuration Manager でフォワーダー、認証モジュールの設定ファイルを管理する場合は、直接管理対象のファイルを編集しないでください。Remote Configuration Manager により設定が上書きされてしまう可能性があります。
- 複数の Remote Configuration Manager が同一のフォワーダーや認証モジュールを管理対象としないようにしてください。複数の Remote Configuration Manager で同一のフォワーダーや認証モジュールを管理する場合は、最後に配布が行われたファイルにより設定ファイルなどが上書きされてしまいます。
- IceWall SSO Configuration Manager 3.0 およびそれ以前のバージョンとの互換性はありません。

6 インストール

Remote Configuration Manager のインストールは、各モジュール別に行います。

6.1 RCFGAgent のインストール

RCFGAgent のインストール手順を以下に示します。

RCFGAgent は、フォワーダーと認証モジュールが動作する各サーバーにそれぞれ配置してください。

RCFGAgent は上書きインストールを行うことはできません。すでに RCFGAgent がインストールされている場合は一度アンインストールを行ってから、再度 RCFGAgent のインストールを行ってください。

- (1) フォワーダーと認証モジュールが動作するサーバーに **root** ユーザーでログインします。
- (2) CD-ROM ドライブに IceWall SSO のインストール用 CD-ROM を挿入します。
- (3) CD-ROM をマウントします。

■ OS が HP-UX の場合 ■

以下のコマンドで CD-ROM ドライブのデバイスファイル名を確認します。

```
# ioscan -fn | more
```

以下のコマンドで CD-ROM をマウントします。

```
# mount [ デバイスファイル名 ] [ マウントポイント ]
```

例) デバイスファイル名 : 「/dev/dsk/c1t2d0」、マウントポイント : 「SD_CDROM」の場合

```
# mount /dev/dsk/c1t2d0 /SD_CDROM
```

■ OS が Linux の場合 ■

以下のコマンドで CD-ROM をマウントします。

```
# mount -f iso9660 /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

- (4) RCFGAgent をインストールします。

■ OS が HP-UX の場合 ■

以下のコマンドでインストールします。

```
# swinstall -s /SD_CDRROM/RCM/hpux/IceWall-RCM-ia64.sw  
icewall_rcfg
```

■ OS が Linux の場合 ■

以下のコマンドでインストールします。

```
# rpm -ivh --nodeps /mnt/cdrom/RCM/linux/IceWall-RCM-rcfgagt-  
4.0.0-1.i386.rpm
```

- (5) 以下のコマンドでパッケージがインストールされたことを確認します。

■ OS が HP-UX の場合 ■

```
# swlist icewall_rcfg
```

■ OS が Linux の場合 ■

```
# rpm -q IceWall-RCM-rcfgagt
```

- (6) インストールされたファイルを確認します。

RCFGAgent は /opt/icewall-iwrcmagt 以下のディレクトリにインストールされます。
インストール後のディレクトリ構成を以下に示します。

ディレクトリとファイル名 (権限)
in.imtransd(755)
iwrcmagt.conf(644)

インストール完了後は RCFGAgent の設定を行ってください。設定の方法については「7 RCFGAgent の設定」を参照してください。

6.2 RCFGManager のインストール

注) RCFGManager をインストールするためには .NET Framework 3.5.1 が必要です。
このため、.NET Framework 3.5.1 をあらかじめインストールしておいてください。
RCFGManager は上書きインストールを行うことはできません。すでに
RCFGManager がインストールされている場合は一度アンインストールを行って
から、再度 RCFGManager のインストールを行ってください。

RCFGManager のインストール手順を以下に示します。

- (1) RCFGManager をインストールするサーバーに Administrators グループに所属する
ユーザーでログインします。

- (2) CD-ROM ドライブに IceWall SSO の CD-ROM を挿入します。
- (3) エクスプローラーで CD-ROM ドライブを開き（ここでは D ドライブを CD-ROM ドライブとします）、D:\RCM\windows\rcmsetup_x64limited.exe をダブルクリックして RCFGManager のインストーラーを起動します。
- (4) [開いているファイル・セキュリティの警告] ダイアログが表示されるので [実行] ボタンをクリックしてインストールを継続してください。
- (5) [セットアップに使用する言語を選んでください。] ダイアログが表示されるので「Japanese」を選択して [OK] ボタンをクリックしてください。
- (6) [IceWall Remote Configuration Manager 管理対象数制限版 セットアップ] ダイアログが表示され、「IceWall Remote Configuration Manager 管理対象数制限版セットアップウィザードの開始」と表示されるので [次へ] ボタンをクリックしてください。
- (7) [インストール先の指定] ダイアログが表示されるので [次へ] ボタンをクリックしてください。インストール先を変更する場合は [参照] ボタンをクリックしてインストール先フォルダーを指定してください。
- (8) [プログラムグループの指定] ダイアログが表示されるので [次へ] ボタンをクリックしてください。プログラムグループを変更する場合は [参照] ボタンをクリックしてプログラムグループを変更してください。
- (9) [追加タスク] ダイアログが表示されるのでデスクトップ上に IceWall Remote Configuration Manager のショートカットを作成する場合は [デスクトップ上にアイコンを作成する] チェックボックスをチェックして [次へ] ボタンをクリックしてください。
- (10) [インストール準備完了] ダイアログが表示されるので、インストール先とプログラムグループを確認して [インストール] ボタンをクリックしてください。
- (11) [インストール状況] ダイアログが表示されます。
- (12) [IceWall Remote Configuration Manager 管理対象数制限版セットアップウィザードの完了] ダイアログが表示されるので [完了] ボタンをクリックしてください。
- (13) インストーラーは IWRCMAAdministrators グループを追加します。
IWRCMAAdministrators グループを有効にするためにログオフをする必要があります。[IceWall Remote Configuration Manager のインストールを完了するためにはコンピューターをログオフする必要があります。すぐにログオフしますか?] ダイアログが表示されるので [はい] ボタンをクリックしてログオフしてください。

(14) RCFGManager をインストールしたサーバーにインストールを行ったユーザーでログインします。

以上で RCFGManager のインストールは完了です。

インストール完了後、標準では「C:\Program Files\HP\IWRCM」フォルダーにファイルがインストールされます。インストール後は「C:\Program Files\HP\IWRCM」フォルダー以下のファイルの構成を確認してください。

フォルダーとファイル名		説明	
IWRCM.exe		RCFGManager 本体	
IWRCMEdition.dll		RCFGManager エディション管理ファイル	
IWRCM.ini		RCFGManager 設定ファイル	
unins000.dat		アンインストール用ファイル	
unins000.exe		アンインストール用ファイル	
en		リソースファイルフォルダー	
	IWRCM.resources.dll	リソースファイル	
xml		設定 XML 格納フォルダー	
	IWRCMConfigSample.xml	サンプル設定 XML ファイル	
log		ログフォルダー	
installation		インストーラー作業用フォルダー	
	en		言語リソースファイルフォルダー
		CreateEventSource.resources.dll	リソースファイル
		GrantAccessControl.resources.dll	リソースファイル
	CreateEventSource.exe		イベントソース作成ツール
	GrantAccessControl.exe		ユーザー権限付与ツール
	environment_setup.bat		環境設定再実行バッチファイル
	iwrcmerrors.log		環境設定時のエラーログファイル ※出力されない場合があります。

インストーラーが各フォルダーに対して適切な権限をインストール時に設定します。フォルダーの権限を変更しないでください。特に「xml」フォルダーの権限は RCFGManager をオペレーターモードで動作させるユーザーには書き込みができないように設定されています。この設定を変更しないでください。

インストール完了後は RCFGManager の設定を行ってください。設定の方法については「8 RCFGManager の設定」を参照してください。

7 RCFGAgent の設定

RCFGAgent を動作させるために必要な設定を行います。

7.1 自動起動の設定

RCFGAgent は、特定のポートへアクセスされたときに inetd/xinetd により起動されます。ここでは、そのための設定を行います。

7.1.1 /etc/services の設定

RCFGAgent を inetd/xinetd から自動起動するために使用するサービス名とポート番号を、サービス設定ファイル (/etc/services) に追加します。

(1) RCFGAgent をインストールしたサーバーに root ユーザーでログインします。

(2) サービス設定ファイル (/etc/services) をエディターで開きます。

```
# vi /etc/services
```

(3) 次の設定内容を追加します。サービス名とポート番号（下記の例では 15000 と 15001 を使用しています）は任意です。ただし、設定するポート番号は他で使用されていないことを確認してください。

【フォワーダーを扱う設定】

```
imtrans-dfw 15001/tcp
```

【認証モジュールを扱う設定】

```
imtrans-cert 15000/tcp
```

フォワーダーと認証モジュールが同一のサーバーに存在する場合は、認証モジュールの設定とフォワーダーの設定を両方行ってください。

(4) 設定ファイルを保存して、エディターを終了します。

7.1.2 inetd/xinetd の設定

RCFGAgent を inetd/xinetd により自動起動するための設定を行います。

■ OS が HP-UX の場合 ■

(1) RCFGAgent をインストールしたサーバーに root ユーザーでログインします。

- (2) `inetd` の設定ファイル (`/etc/inetd.conf`) をエディターで開きます。

```
# vi /etc/inetd.conf
```

- (3) 次の設定内容を追加します。

【フォワーダーを扱う設定】

```
imtrans-dfw stream tcp nowait [apache] /opt/icewall-iwrcmagt/  
in.imtransd in.imtransd -f /opt/icewall-iwrcmagt/  
iwrcmagent.conf
```

※この設定は1行で記述してください。

※実行ユーザー `[apache]` は、フォワーダーの設定ファイル所有者を指定してください。

【認証モジュールを扱う設定】

```
imtrans-cert stream tcp nowait [iwadmin] /opt/icewall-  
iwrcmagt/in.imtransd in.imtransd -f /opt/icewall-iwrcmagt/  
iwrcmagent.conf
```

※この設定は1行で記述してください。

※実行ユーザー `[iwadmin]` は、認証モジュールの設定ファイル所有者を指定してください。

フォワーダーと認証モジュールが同一のサーバーに存在する場合は、認証モジュールの設定とフォワーダーの設定を両方行ってください。

- (4) 設定ファイルを保存して、エディターを終了します。

- (5) 設定を有効とするために以下のコマンドを実行します。

```
# inetd -c
```

■ OS が Linux の場合 ■

- (1) `RCFGAgent` をインストールしたサーバーに `root` ユーザーでログインします。

- (2) ディレクトリを移動します。

```
# cd /etc/xinetd.d
```

- (3) サービス名の設定ファイルを新規作成します。

【フォワーダーを扱う設定】

```
# vi imtrans-dfw
```

imtrans-dfw の内容

```
service imtrans-dfw
{
    flags            = REUSE
    socket_type      = stream
    wait             = no
    user             = [apache]
    umask            = 000
    server           = /opt/icewall-iwrcmagt/in.imtransd
    server_args      = -f /opt/icewall-iwrcmagt/iwrcmagent.conf
    disable          = no
}
```

※実行ユーザー [apache] は、フォワーダーの設定ファイル所有者を指定してください。

設定ファイルを保存して、エディターを終了します。

【認証モジュールを扱う設定】

```
# vi imtrans-cert
```

imtrans-cert の内容

```
service imtrans-cert
{
    flags            = REUSE
    socket_type      = stream
    wait             = no
    user             = [iwadmin]
    umask            = 000
    server           = /opt/icewall-iwrcmagt/in.imtransd
    server_args      = -f /opt/icewall-iwrcmagt/iwrcmagent.conf
    disable          = no
}
```

※実行ユーザー [iwadmin] は、認証モジュールの設定ファイル所有者を指定してください。

設定ファイルを保存して、エディターを終了します。

フォワーダーと認証モジュールが同一のサーバーに存在している場合は上記の `imtrans-dfw` と `imtrans-cert` の両方を新規作成します。

- (4) 以下のコマンドを実行します。これにより、`/etc/services` で定義したサービスが開始します。

【フォワーダーを扱う設定】

```
# chkconfig imtrans-dfw on
```

【認証モジュールを扱う設定】

```
# chkconfig imtrans-cert on
```

(5) 設定を有効とするため以下のコマンドを実行します。

```
# service xinetd restart
```

実行結果が以下のようになれば正常に設定されています。

```
Stopping xinetd:          [ OK ]
Starting xinetd:          [ OK ]
```

※実行する環境によって表示内容は異なる場合があります。

7.1.3 LISTEN 状態の確認

ポートが LISTEN 状態であることを確認してください。

【同一サーバー内にフォワーダーだけが存在している場合】

```
# netstat -an | grep 15001
```

以下のようにポート 15001 が LISTEN 状態になっていることを確認します

```
tcp      0      0 0.0.0.0:15001      0.0.0.0:*          LISTEN
```

※実行する環境によって表示内容は異なる場合があります。

【同一サーバー内に認証モジュールだけが存在している場合】

```
# netstat -an | grep 15000
```

以下のようにポート 15000 が LISTEN 状態になっていることを確認します

```
tcp      0      0 0.0.0.0:15000      0.0.0.0:*          LISTEN
```

※実行する環境によって表示内容は異なる場合があります。

【同一サーバー内にフォワーダーと認証モジュールが存在している場合】

```
# netstat -an | grep 15000
# netstat -an | grep 15001
```

以下のようにポート 15000 と 15001 が LISTEN 状態になっていることを確認します。

```
tcp      0      0 0.0.0.0:15000      0.0.0.0:*          LISTEN
tcp      0      0 0.0.0.0:15001      0.0.0.0:*          LISTEN
```

※実行する環境によって表示内容は異なる場合があります。

7.2 設定ファイル

RCFGAgent の設定例を以下に示します。

7.2.1 RCFGAgent 設定ファイル (iwrcmagt.conf)

【フォワーダーを管理対象とする場合】

```
LOGLEVEL=1
LOGFILE=/opt/icewall-iwrcmagt/iwrcmagt.log
ALLOWDIR=/opt/icewall-sso/dfw/cgi-bin
ALLOWDIR=/opt/icewall-sso/logs
AGENTKEY=IWRCMKEY
```

【認証モジュールを管理対象とする場合】

```
LOGLEVEL=1
LOGFILE=/opt/icewall-iwrcmagt/iwrcmagt.log
ALLOWDIR=/opt/icewall-sso/certd/config
ALLOWDIR=/opt/icewall-sso/logs
AGENTKEY=IWRCMKEY
```

ALLOWDIR に RCFGAgent が操作するディレクトリ名を指定します。これにより、指定したディレクトリだけにファイル操作を限定できます。

AGENTKEY はデフォルトの設定から変更して使用することをお勧めします。

8 RCFGManager の設定

RCFGManager を動作させるために必要な設定を行います。

8.1 管理者モードとオペレーターモード

RCFGManager はすべての操作が可能な管理者モードと動作を制限したオペレーターモードの 2 種類の動作モードがあります。

RCFGManager が管理者モードで動作するか、オペレーターモードで動作するかは、RCFGManager を起動したユーザーが IWRCMAdministrators グループ（ローカルグループまたはドメイングループ）に所属しているかどうかで決定されます。

IWRCMAdministrators グループに所属しているユーザーが RCFGManager を起動した場合、RCFGManager は管理者モードで起動します。

IWRCMAdministrators グループに所属しないユーザーが RCFGManager を起動した場合、RCFGManager はオペレーターモードで起動します。

オペレーターモードでは新規アイテムの作成、既存のアイテムの変更、設定 XML ファイルの読み込み、保存を行うことはできません。

8.2 RCFGManager を管理者モードで動作させる設定

インストールを行ったユーザー以外のユーザーで RCFGManager を管理者モードで動作させるためには、RCFGManager を動作させるユーザーを IWRCMAdministrators グループに追加して、RCFGManager を起動してください。

RCFGManager のインストーラーは IWRCMAdministrators グループを作成し、インストールを行ったユーザーを IWRCMAdministrators グループに追加します。

IWRCMAdministrators グループに属するユーザーが RCFGManager を起動すると RCFGManager は管理者モードで起動します。

8.3 RCFGManager をオペレーターモードで動作させる設定

IWRCMAdministrators グループに所属しないユーザーで Windows にログインして RCFGManager を起動するとオペレーターモードとなります。

オペレーターモードでは RCFGManager はあらかじめ作成された設定 XML ファイルを起動時に自動的に読み込むため、あらかじめ設定 XML ファイルを作成しておく必要があります。

設定 XML ファイルは、設定 XML 格納フォルダー（デフォルトでは C:\Program Files\HP\IWRCM\xml）に保存されているものを読み込みます。

このファイルは、管理者モードでのみ作成可能です。以下のファイル名となるように作

成してください。

＜ Windows にログインしているユーザー名＞ @ ＜ローカルコンピューター名、もしくは Windows ドメイン名＞ IWRCMConfig.xml

例) user1 というユーザーで localcomputer という名前のコンピューターでオペレーターモードで RCFGManager を起動する場合
「user1@localcomputerIWRCMConfig.xml」

8.4 RCFGManager をオペレーターモードで動作させる設定に関する注意点

Administrators グループなど権限の変更を行うことができるグループに所属するユーザーの場合、IWRCMAadministrators グループに所属していなくても同等の操作が可能となります。

このため、オペレーターモードで RCFGManager を使用するユーザーは Administrators グループなど権限の変更を行うことができるグループには所属しないようにしてください。

9 バージョン情報の確認方法

9.1 RCFGAgent のバージョン情報の確認方法

- (1) RCFGAgent をインストールしたサーバーに root ユーザーでログインします。
- (2) モジュール (in.imtransd) が存在するインストールディレクトリに移動します。

```
# cd /opt/icewall-iwrcmagt
```

次のコマンドを入力して、バージョンを表示します。

■ OS が HP-UX の場合 ■

```
# what in.imtransd
```

■ OS が Linux の場合 ■

```
# strings in.imtransd | grep '@(#)'
```

表示例は以下のとおりです。

■ OS が HP-UX の場合 (Itanium) ■

```
in.imtransd:
    IceWall Remote Configuration Manager(RCFGAgent)
    Version: 04.00.00.xxxxxxxX
    OS : HP-UX B.11.23
    CPU: Itanium
    Bit: 64bit
    (c) Copyright 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.
```

■ OS が Linux の場合 ■

```
@(#)IceWall Remote Configuration Manager(RCFGAgent)
@(#)Version: 04.00.00.xxxxxxxX
@(#)OS : Linux 2.6.18
@(#)CPU: Pentium
@(#)Bit: 32bit
@(#) (c) Copyright 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.
```


9.2 RCFGManager のバージョン情報の確認方法

- (1) RCFGManager をインストールした Windows Server に IWRCMA administrators グループ (ローカルグループまたはドメイングループ) に所属するユーザー、もしくは設定 XML ファイルが作成されているユーザーでログインします。
- (2) RCFGManager を起動します。
- (3) [ヘルプ] メニューの [バージョン情報] をクリックします。
- (4) [バージョン情報] 画面が表示されます。



10 アンインストール

Remote Configuration Manager のアンインストールは、各モジュール別に行います。

10.1 RCFGAgent のアンインストール

RCFGAgent のアンインストール方法について記述します。

10.1.1 /etc/services の設定削除

「7.1.1 /etc/services の設定」にて追加した設定を削除します。

10.1.2 inetd/xinetd の設定削除

■ OS が HP-UX の場合 ■

(1) 「7.1.2 inetd/xinetd の設定」にて /etc/inetd.conf に追加した設定を削除します。

(2) 設定を有効とするため次のコマンドを実行します。

```
# inetd -c
```

■ OS が Linux の場合 ■

(1) 「7.1.2 inetd/xinetd の設定」にて作成した /etc/xinetd.d のファイルを削除します。

```
# rm /etc/xinetd.d/imtrans-dfw  
# rm /etc/xinetd.d/imtrans-cert
```

(2) 設定を有効とするため次のコマンドを実行します。

```
# service xinetd restart
```

10.1.3 ファイルの削除

■ OS が HP-UX の場合 ■

(1) swremove コマンドを実行します。

```
# swremove icewall_rcfg
```

(2) icewall-iwrcmagt ディレクトリを削除します。

```
# rm -R /opt/icewall-iwrcmagt
```

■ OS が Linux の場合 ■

(1) 以下のコマンドを入力します。

```
# rpm -e IceWall-RCM-rcfgagt
```

※ログファイルが残っている場合、上記コマンドを実行しても「/opt/icewall-iwrcmagt」ディレクトリが削除されず残ってしまうことがあります。この場合、手動で「/opt/icewall-iwrcmagt」ディレクトリを削除してください。

10.2 RCFGManager のアンインストール

RCFGManager のアンインストール方法について記述します。

- (1) Administrators グループに所属するユーザーで RCFGManager がインストールされている Windows Server にログインします。
- (2) [スタート][コントロールパネル]をクリックしてコントロールパネルを表示します。
- (3) [プログラムのアンインストール]をクリックします。
- (4) [プログラムと機能]が表示されます。[プログラムのアンインストールまたは変更]で「IceWall Remote Configuration Manager 4.0」を選択して[アンインストール]をクリックします。
- (5) [IceWall Remote Configuration Manager 管理対象数制限版アンインストール]が表示されるので、[はい]ボタンをクリックしてアンインストールを行います。
- (6) 「IceWall Remote Configuration Manager 管理対象数制限版アンインストールが完了しました。」というメッセージが表示されるので [OK] ボタンをクリックします。
- (7) インストール時に作成された IWRCMA administrators グループを削除します。

以上で RCFGManager のアンインストールは終了です。

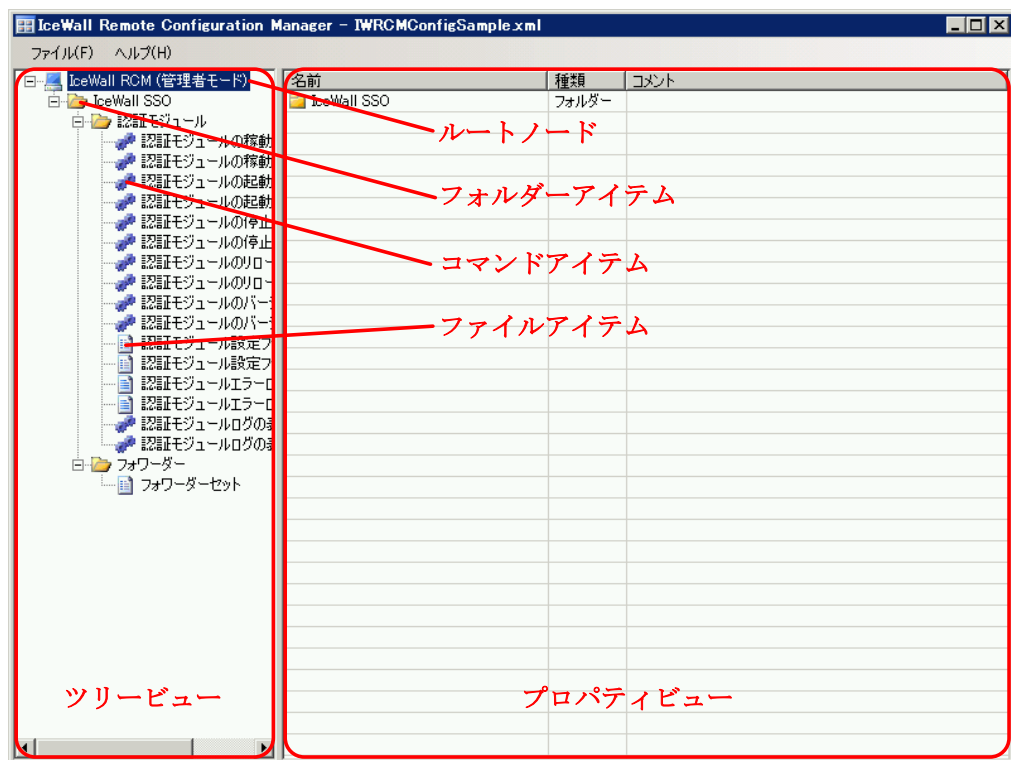
※ログファイルが残っている場合、上記手順でアンインストールを実行してもアプリケーションフォルダー（標準で「C:\Program Files\HP\IWRCM」）が削除されず残ってしまうことがあります。この場合、手動でアプリケーションフォルダーを削除してください。

11 RCFGManager の画面

RCFGManager の画面について説明します。

11.1 画面の説明

以下は、管理者モードで RCFGManager を起動して [ファイル][設定の読み込み] でサンプル設定 XML ファイル (xml\IWRCMConfigSample.xml) を読み込んだ場合の画面の例です。



11.1.1 ツリービュー

RCFGManager の管理データをフォルダーアイテムによる階層構造で表示します。ツリービューではアイテムを選択して右クリックを行うことにより、選択しているポップアップメニューが表示されます。

11.1.2 プロパティビュー

ツリービューで選択しているアイテムのプロパティが表示されます。
ツリービューでフォルダーアイテムを選択している場合は、選択しているフォルダーアイテムの下にあるアイテムの一覧が表示されます。
ツリービューでファイルアイテムを選択している場合はファイルアイテムのプロパティが表示されます。

ツリービューでコマンドアイテムを選択している場合はコマンドアイテムのプロパティが表示されます。

11.1.3 ルートノード

RCFGManager のツリービューの最上位に表示されます。

管理者モードでは「(管理者モード)」という名前が表示されます。

管理者モードではルートノードを選択して右クリックして表示される [プロパティ] でエージェントキーを閲覧、変更することが可能です。

オペレーターモードでは「(管理者モード)」という文字は表示されません。またエージェントキーの閲覧と変更を行うことはできません。

11.1.4 フォルダーアイテム

Remote Configuration Manager は、管理を容易にするためにフォルダーによる階層構造を作成することができます。

11.1.5 ファイルアイテム

RCFGManager は、HP-UX および Linux サーバー上の任意のファイルを編集、閲覧するためにファイルアイテムを作成することができます。

ファイルアイテムには Windows Server にインストールされた任意のアプリケーションを関連付けすることにより、ユーザーが使い慣れた Windows アプリケーションでファイルの編集と閲覧を行うことができます。

ファイルアイテムでは複数の HP-UX または Linux サーバーを指定することが可能です。複数のサーバーを指定した場合はセットとして扱われ、一元管理されたセットの、各種ファイルの設定が参照または変更できます。

異なるパスにあるファイルを同じセットで取り扱うことはできません。セットで複数の HP-UX または Linux サーバー上のファイルを取り扱う場合、ファイルの絶対パスは同じでなければなりません。

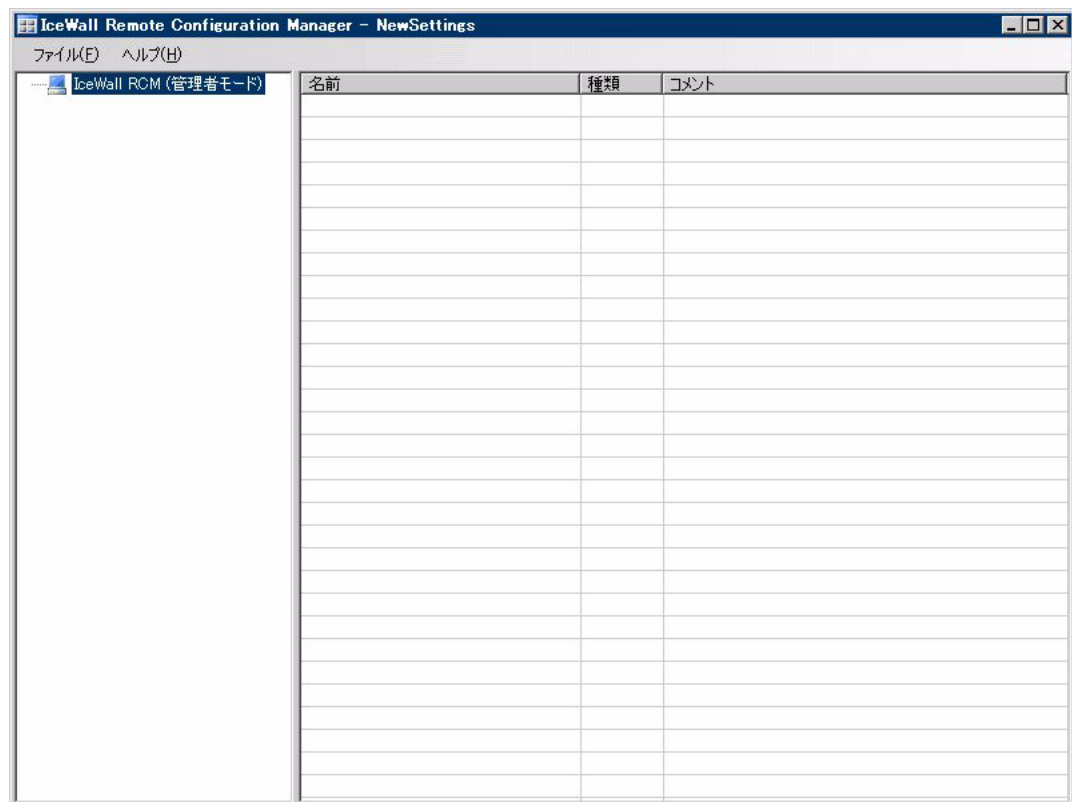
11.1.6 コマンドアイテム

RCFGManager は、HP-UX および Linux 上で任意のコマンドを実行するためにコマンドアイテムを作成することができます。

RCFGManager はコマンドアイテムを実行すると、そのコマンドアイテムに設定されている HP-UX および Linux コマンドを指定されたサーバーに送信して、コマンドを実行して結果を表示します。

12.1.1 管理者モードでの RCFGManager の起動

※ 標準のプログラムグループの場合



管理者モードで起動した場合、ツリービューの最上位ノードには「IceWall RCM（管理者モード）」と表示されます。

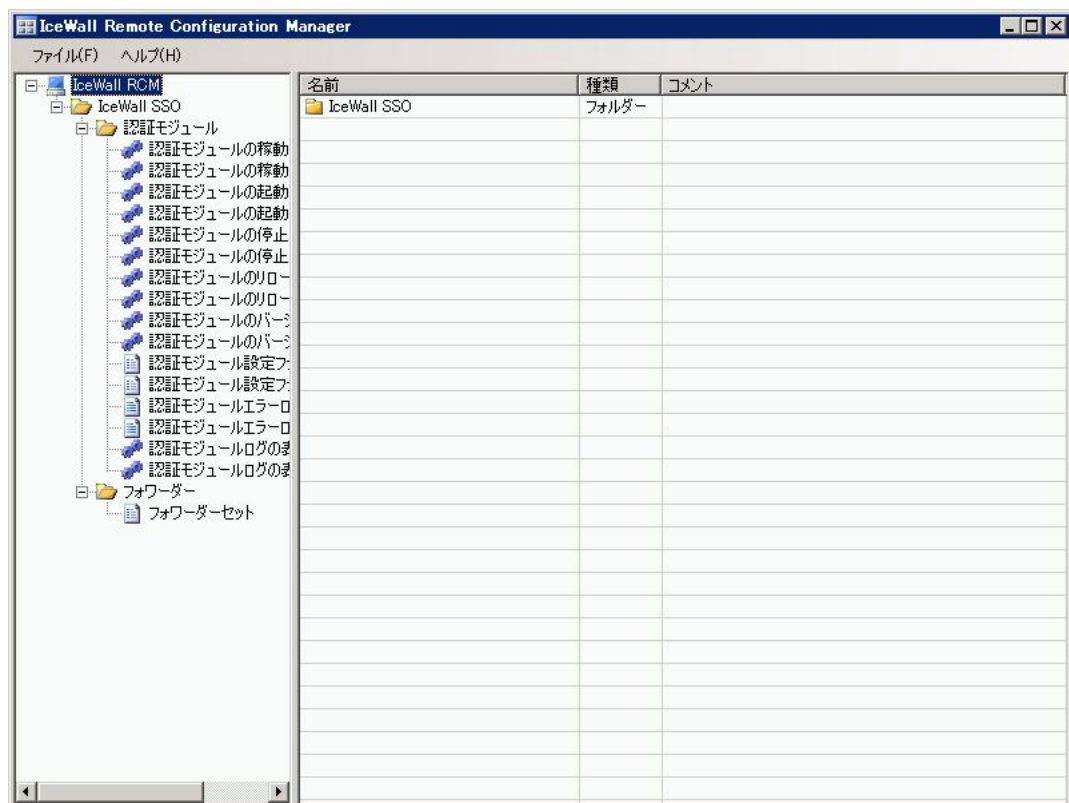
12.1.2 オペレーターモードでの RCFGManager の起動

RCFGManager をインストールした Windows Server に IWRCMAdministrators グループに所属しないユーザーでログインします。

[スタート] [すべてのプログラム] [HP IceWall] [IceWall Remote Configuration Manager] をクリックします。RCFGManager が起動すると、設定 XML ファイルを自動的に読み込み、オペレーターモードになります。

※ 標準のプログラムグループの場合

※ オペレーター用に設定 XML ファイルが事前に作成されている必要があります。作成方法については「8.3 RCFGManager をオペレーターモードで動作させる設定」を参照してください。



画面はサンプル設定 XML ファイルを読み込んだ場合の画面です。

オペレーターモードで起動した場合、ツリービューのルートノードには「IceWall RCM」と表示されます。

12.2 設定の読み込み

設定 XML ファイルを読み込みます。

〔ファイル〕メニューの〔設定の読み込み〕をクリックすると設定 XML ファイルの選択画面が表示されます。読み込みたい設定 XML を選択してください。

〔設定の読み込み〕はオペレーターモードでは使用できません。

12.3 設定の保存

現在の設定を設定 XML ファイルに保存します。

〔ファイル〕メニュー〔設定の読み込み〕で設定 XML ファイルを読み込んでいる場合は既存の設定 XML ファイルを上書き保存します。

新規に設定を行った場合は〔設定の保存〕画面が表示されるので、保存したいフォルダーとファイル名を指定してください。

〔設定の保存〕はオペレーターモードでは使用できません。

12.4 設定に名前をつけて保存

現在の設定を設定 XML ファイルに名前をつけて保存します。

〔ファイル〕メニューの〔設定に名前をつけて保存〕をクリックすると〔設定の保存〕画面が表示されるので、保存したいフォルダーとファイル名を指定してください。

〔設定に名前をつけて保存〕はオペレーターモードでは使用できません。

12.5 終了

〔ファイル〕メニューの〔終了〕をクリックすると RCFGManager を終了します。

設定の変更が行われている場合は設定を保存するかどうかを確認する画面が表示されます。

12.6 バージョン情報の表示

〔ヘルプ〕の〔バージョン情報〕をクリックすると〔バージョン情報〕画面を表示します。

12.7 エージェントキーの設定

管理者モードで、ツリービューのルートノードのプロパティを表示した場合は RCFGManager が RCFGAgent との通信に使用する〔エージェントキー〕画面が表示されます。

RCFGAgent の設定ファイルで指定されているエージェントキーを設定してください。

オペレーターモードではエージェントキーの表示 / 編集を行うことはできません

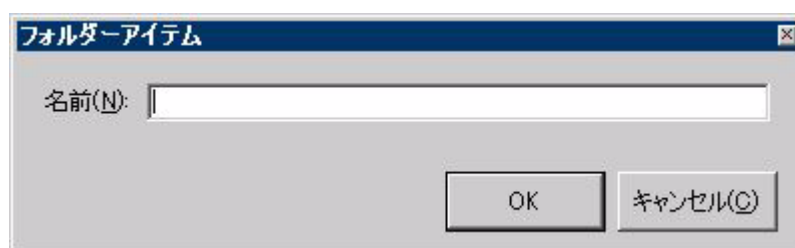
12.8 フォルダーアイテムの新規作成

ツリービューでルートノード、もしくはフォルダーアイテムを選択して右クリックした際に表示されるポップアップメニューでは [新規作成] がクリック可能です。

[新規作成] は [フォルダーアイテム]、[ファイルアイテム]、[コマンドアイテム] をサブメニューに持ちます。

[新規作成] の [フォルダーアイテム] をクリックすると [フォルダーアイテム] 画面が表示されます。

作成するフォルダーアイテムの名前を入力して [OK] ボタンをクリックするとフォルダーアイテムが作成され、フォルダーアイテムがツリービューに表示されます。



項目	説明
名前	作成したいフォルダーアイテムの名前を入力してください。 同じ階層に同じ名前のアイテムを作成することはできません。 名前は必須です。 名前は最大で 255 文字入力することが可能です。

画面での入力可能文字数は、バイト数ではなく文字数です。全角・半角を区別しません。これ以降入力可能文字数の記述があれば、それらも同様になります。

フォルダーアイテムの新規作成はオペレーターモードでは使用できません。

12.9 ファイルアイテムの新規作成

[新規作成] の [ファイルアイテム] をクリックすると [ファイルアイテム] 画面が表示されます。

作成するアイテムの設定情報を入力して [OK] ボタンをクリックするとファイルアイテムが作成されます。ファイルアイテムがツリービューに表示され、設定情報がプロパティビューに表示されます。

ファイルアイテム

名前(N):

☐ ファイル表示のみ(R)

ホスト(H):

ポート番号を“:”をはさんで指定してください。
複数のホストを記述する場合は“;”で区切ってください。

ファイルパス
(P):

ホスト上のファイルのパスを記述してください

改行コード変換(V)

☐ 編集や表示の際に改行コードを自動的に変更する

☐ 編集や表示の際に改行コードを自動的に変更しない

編集/表示用プログラム(E)

...

コメント(M):

OK キャンセル(C)

項目	説明
名前	作成するファイルアイテムの名前を入力します。 同じ階層に同じ名前のアイテムを作成することはできません。 名前は必須です。 名前は最大で 255 文字入力することが可能です。
ファイル表示のみ	ファイルの表示のみを行い、編集と配布を行わない場合は【ファイルの表示のみ】チェックボックスをチェックします。
ホスト	RCFGAgent がインストールされた HP-UX または Linux サーバーのホスト名とポート番号を入力します。 複数のホストを指定する場合は「;」で区切って入力してください。 管理対象数制限版では一つの設定 XML で指定できるホストの数は最大で 4 ホストです。 ホストは必須です。 ホストは最大で 1024 文字入力することが可能です。
ファイルパス	HP-UX または Linux サーバー上のファイルのフルパスを入力します。 ファイルのフルパスは / から始まる絶対パスで入力してください。 ファイルパスにマルチバイト文字を使用することはできません。 ファイルパスは必須です。 ファイルパスは最大で 512 文字入力することが可能です。

項目	説明
改行コード変換	〔編集や表示の際に改行コードを自動的に変更する〕をチェックすると、HP-UX または Linux サーバーからファイルを取得時にファイルの改行コードを Unix 改行 (LF) から一般的な PC 改行 (CR LF) に変換します。 編集 / 表示用プログラムが Unix 改行に対応しておらず、ファイルパスで指定するファイルの改行コードが Unix 改行の場合は〔編集や表示の際に改行コードを自動的に変更する〕をチェックしてください。
編集 / 表示用プログラム	サーバーから取得したファイルを編集、表示するプログラムの絶対パスを入力してください。〔…〕ボタンをクリックすると〔ファイルを開く〕画面が表示されます。〔ファイルを開く〕画面でプログラムの選択が可能です。 編集 / 表示用プログラムで指定するプログラムには引数に編集、表示するファイルを指定して起動できるプログラムを指定してください。 編集 / 表示用プログラムは最大で 255 文字入力することが可能です。
コメント	任意のコメントを入力してください。 コメントは最大で 255 文字入力することが可能です。

ファイルアイテムの新規作成はオペレーターモードでは使用できません。

12.10 コマンドアイテムの新規作成

〔新規作成〕の〔コマンドアイテム〕をクリックすると〔コマンドアイテム〕画面が表示されます。

作成するアイテムの設定情報を入力して〔OK〕ボタンをクリックするとコマンドアイテムが作成されます。コマンドアイテムがツリービューに表示され、設定情報がプロパティビューに表示されます。

項目	説明
名前	作成するコマンドアイテムの名前を入力します。 同じ階層に同じ名前のアイテムを作成することはできません。 名前は必須です。 名前は最大で 255 文字入力することが可能です。
ホスト	RCFGAgent がインストールされた HP-UX または Linux サーバーの ホスト名とポート番号を入力します。 コマンドアイテムでは単一のホストのみ指定できます。 管理対象数制限版では一つの設定 XML で指定できるホストの数は最大で 4 ホストです。 ホストは必須です。 ホストは最大で 255 文字入力することが可能です。
コマンド	HP-UX または Linux サーバー上で実行するコマンドを入力します。 実行するコマンドはフルパスで指定するか、RCFGAgent を実行する ユーザーの環境変でパスが設定されている必要があります。 コマンドに「;」、「&」、「 」、「&&」を使用することはできません。 「tail -f」や「top」のように継続的に実行されて結果を返すコマンド を使用することはできません。 コマンドアイテムで「more」のように入力を受け付けるコマンドを使用 することはできません。 コマンドにマルチバイト文字を使用することはできません。 コマンドは必須です。 コマンドは最大で 512 文字入力することが可能です。
文字コード	実行したコマンドの結果を表示する際に使用する文字コードを指定 します。
コメント	任意のコメントを入力してください。 コメントは最大で 255 文字入力することが可能です。

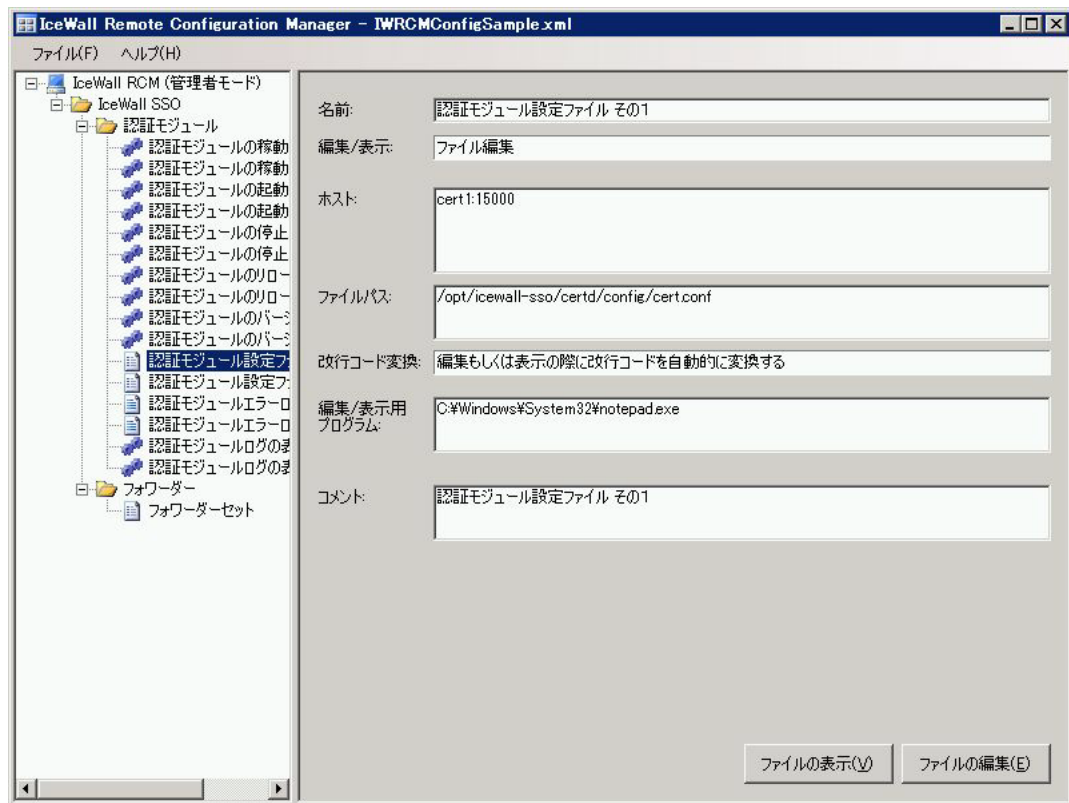
コマンドアイテムの新規作成はオペレーターモードでは使用できません。

12.11 アイテムの削除

ツリービューで削除するフォルダーアイテムやファイルアイテム、コマンドアイテム上で右クリックをしてポップアップメニューの [削除] をクリックします。
[削除] をクリックすると、選択しているアイテムを削除するかどうか確認の画面が表示されます。アイテムを削除する場合は削除の確認画面で [はい] ボタンをクリックしてください。

オペレーターモードではアイテムの削除はできません。

12.12 ファイルアイテムの表示



ツリービューでファイルアイテムを選択時、画面右側には選択しているファイルアイテムのプロパティと【ファイルの表示】【ファイルの編集】ボタンが表示されます。ファイルアイテムが読み取り専用の場合は【ファイルの編集】ボタンは無効です。

選択しているファイルアイテムの設定を変更するにはツリービュー（画面左側）で右クリックを行い【プロパティ】をクリックします。

12.13 ファイルの表示

ツリービューでファイルアイテムを選択時、【ファイルの表示】ボタンをクリックすると、選択しているファイルアイテムの設定に従い、RCFGAgent がインストールされた HP-UX または Linux サーバーからファイルを取得して表示します。ファイルアイテムのホストに複数のホストが設定されている場合は一番先頭に記述されたホストからファイルを取得します。

ツリービューでファイルアイテムを選択して右クリックで表示されるポップアップメニューの【ファイルの表示】をクリックしてもファイルの表示を行うことができます。

12.14 ファイルの編集

ツリービューでファイルアイテムを選択時、[ファイルの編集] ボタンをクリックすると、選択しているファイルアイテムの設定に従い、RCFGAgent がインストールされた HP-UX または Linux サーバーからファイルを取得して表示します。

ファイルアイテムのホストに複数のホストが設定されている場合は一番先頭に記述されたホストからファイルを取得します。

ファイルの編集を行っているエディターを終了すると、サーバーに対してファイルの配布を行います。ファイルアイテムのホストに複数のホストが設定されている場合はすべてのホストに対してファイルの配布が行われます。

ファイルの配布を行う際に、RCFGManager はファイルのバックアップを配布先の RCFGAgent がインストールされた HP-UX または Linux サーバー上に作成します。バックアップファイルは配布先のファイルと同じフォルダーに以下の名前で作成されます。

<ファイル名> . <ユーザー名> @ <コンピューター名> YYYYMMDDhhmmss

<ユーザー名> は RCFGManager でファイルを配布したユーザー名です。

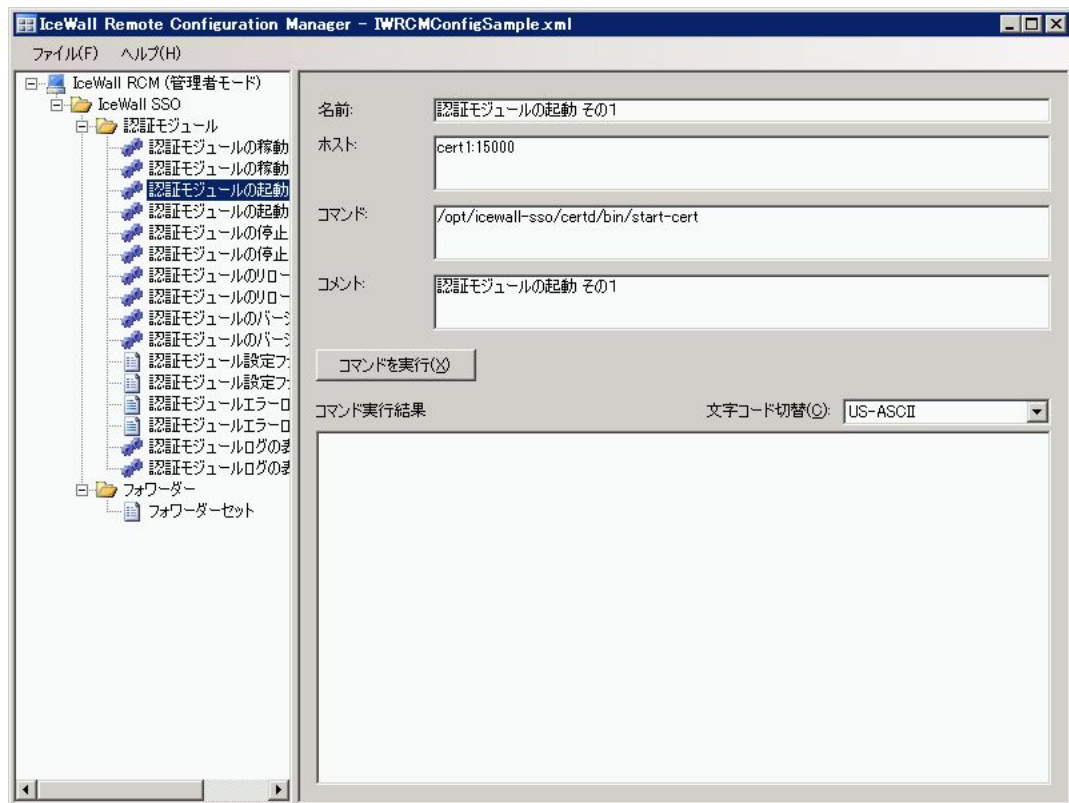
<コンピューター名> は RCFGManager を起動しているコンピューター名です。

YYYYMMDDhhmmss はバックアップファイルを作成した日時になります。

バックアップファイルのファイル名に使用される日時は RCFGManager が動作する Windows のシステム時刻です。そのため実際にファイルを配布した HP-UX または Linux サーバーのシステム時刻とは一致しない場合があります。

ツリービューでファイルアイテムを選択して右クリックで表示されるポップアップメニューの [ファイルの編集] をクリックしてもファイルの編集を行うことができます。

12.15 コマンドアイテム表示



ツリービュー（画面左側）でコマンドアイテムを選択時、画面右側には選択しているコマンドアイテムのプロパティと [コマンドを実行] ボタンが表示されます。

[文字コードの切替] で、コマンドの実行結果を表示する際の文字コードを変更することが可能です。

選択しているコマンドアイテムの設定を変更するにはツリービュー（画面左側）で右クリックを行い [プロパティ] をクリックします。

12.16 コマンドの実行

ツリービュー（画面左側）でコマンドアイテムを選択時、[コマンドの実行] ボタンをクリックすると、コマンドアイテムの設定に従って、RCFGAgent がインストールされている HP-UX または Linux サーバー サーバー上でコマンドが実行されます。そしてコマンドの実行結果がプロパティビューのコマンド実行結果欄に表示されます。

コマンドの実行結果の文字コードを切り替えるには [文字コード切替] のドロップダウンリストから切り替えたい文字コードを選択します。

ツリービューでコマンドアイテムを選択して右クリックで表示されるポップアップメニューの [コマンドの実行] をクリックしてもコマンドの実行を行うことができます。

13 RCFGAgent のリファレンス

ここでは RCFGAgent の設定ファイルで設定できる項目について解説します。

【注意】

このガイドの以降の説明で「デフォルト値」とは、設定ファイルにその項目の設定がない場合、その項目の値として使用する値のことです。

「初期値」とは、標準でインストールされる設定ファイルの各項目に設定されている値です。一部デフォルト値とは異なる値が設定されています。

13.1 RCFGAgent 設定ファイル (iwrcmagent.conf)

概要	RCFGAgent が動作する上で必要な値を設定する設定ファイルです。
格納場所	標準の格納場所は以下のとおりです。 /opt/icewall-iwrcmagt/iwrcmagent.conf
注意事項	テキストファイルとして扱います。 行頭が「#」で始まる行はコメント行です。 無効な項目名を持つ行は無視されます。 インデントされている行は無視されます。 1 行に記述できる文字数は 1024 文字です。この数字には項目名も含まれます。
フォーマット	LOGFILE= ログファイル名 LOGLEVEL= ログレベル ALLOWDIR= ディレクトリ名 DENYDIR= ディレクトリ名 AGENTKEY= エージェントキー

次のページより各項目について解説を行います。

LOGFILE

概要 RCFGAgent が出力するログのファイル名を設定します。

書式 **LOGFILE= ログファイル名**

- ログファイル名は絶対パスで設定してください。
- ログファイル名は 255 文字以内で記述してください。
- デフォルト値は /opt/icewall-iwrcmagent/iwrcmagent.log です。
- 初期値は /opt/icewall-iwrcmagent/iwrcmagent.log です。

設定例 1) ファイル名「/opt/icewall-iwrcmagent/iwrcmagent.log」に設定する場合
LOGFILE=/opt/icewall-iwrcmagent/iwrcmagent.log

備考

- 設定されていない場合、デフォルト値を使用します。

関連項目 LOGLEVEL

LOGLEVEL

概要 ログの出力レベルを設定します。

書式 **LOGLEVEL= ログレベル**

- ログレベルは以下の値を設定します。
 - 0: 出力しない
 - 1: 重大エラーのみ (Fatal)
 - 2: 重大エラーと警告を含む (Warning)
 - 3: すべての情報を含む (Information)
- デフォルト値は 1 です。
- 初期値は 1 です。

設定例 1) ログに重大エラーと警告を出力させる場合
LOGLEVEL=2

備考 • 設定されていない場合、デフォルト値を使用します。

関連項目 LOGFILE

ALLOWDIR

概要 ファイルの取得・更新を許可するディレクトリを設定します。

書式 **ALLOWDIR= ディレクトリ名**

- 絶対パスで設定します。
- デフォルト値はありません。
- 本項目は複数行設定できます。
- 初期値は /opt/icewall-sso です。

設定例 1) 認証モジュールの設定ファイルのあるディレクトリを許可する場合
ALLOWDIR=/opt/icewall-sso/certd/config

備考

- 本項目で設定されていないディレクトリの配下にあるファイルに対して、取得・更新はできません。
- ALLOWDIR が記述されていない場合はすべてのディレクトリとファイルに対する操作がキャンセルされます。
- 上に書かれた ALLOWDIR から順番に評価します。最初の ALLOWDIR で一致した場合、それ以降の ALLOWDIR は評価しません。(DENYDIR は評価します。)
- ディレクトリ名が絶対パスでない場合は、ログに警告メッセージを出力して設定を無視します。

関連項目 DENYDIR

DENYDIR

概要 ファイルの取得・更新を不許可にするディレクトリを設定します。

書式 **DENYDIR= ディレクトリ名**

- 絶対パスで設定します。
- デフォルト値はありません。
- 本項目は複数行設定できます。
- 初期値はありません。

設定例 1) 認証モジュール自体のあるディレクトリを不許可にする場合
DENYDIR=/opt/icewall-ssso/certd/bin

備考

- ALLOWDIR 項目と同じディレクトリが設定された場合は、本項目が優先され、ディレクトリへのアクセスは不許可となります。
- 上に書かれたDENYDIRから順番に評価します。最初のDENYDIRで一致した場合、それ以降の DENYDIR は評価しません。
- ディレクトリ名が絶対パスでない場合は、ログに警告メッセージを出力して設定を無視します。

関連項目 ALLOWDIR

AGENTKEY

概要	RCFGManager と通信する際に確認するキー文字列を設定します。
書式	AGENTKEY= エージェントキー • エージェントキーは 16 文字以下の任意の英数字で指定してください。 • 16 文字より長い文字列は 17 文字以降が捨てられます。 • デフォルト値はありません。 • 本項目は RCFGManager 側のエージェントキーと同じ値でなければなりません。 • 本項目は必須項目です。 • 初期値は「IWRCMKEY」です。
設定例	1) エージェントキーを IWRCMKEY とする場合 AGENTKEY=IWRCMKEY
備考	• AGENTKEY が一致しない場合、RCFGAgent は応答を返しません。 • AGENTKEY はデフォルトの設定から変更して使用することをお勧めします。
関連項目	<group> (ルートノード) 要素の key 属性 (設定 XML ファイル)

14 RCFGManager のリファレンス

RCFGManager の各設定ファイルについて記述します。

RCFGManager には 2 種類の設定ファイルが存在します。

- RCM 設定ファイル (IWRCM.ini)
- 設定 XML ファイル

【注意】

このガイドの以降の説明で「デフォルト値」とは、設定ファイルにその項目の設定がない場合、その項目の値として使用する値のことです。

「初期値」とは、標準でインストールされる設定ファイルの各項目に設定されている値です。一部デフォルト値とは異なる値が設定されています。

14.1 RCM 設定ファイル (IWRCM.ini)

概要	RCFGManager が動作する上で必要な値の設定を行う設定ファイルです。設定可能な項目は以下のとおりです。
格納場所	標準の格納場所は以下のとおりです。 C:\Program Files\HP\IWRCM\IWRCM.ini
注意事項	RCM 設定ファイルは IWRCMAdministrators グループに所属しないユーザーも編集可能です。
フォーマット	ERROR= エラーログファイル名 TRACE= トレースログファイル名 CHARSET= 文字コード [, 文字コード][,...] CONNECTIONTIMEOUT= タイムアウト時間 (秒)

次のページより各項目について解説を行います。

ERROR

概要 エラーログ出力ファイル名を設定します。

書式 **ERROR= エラーログファイル名**

- エラーログファイルを絶対パスまたは RCFGManager の本体のあるフォルダーからの相対パスで設定します。
- デフォルト値はありません。
- 初期値は「.\log\Error.log」です。
- 本項目は必須項目です。

設定例 1) エラーログを .\log\Error.log に出力する場合
ERROR=.\log\Error.log

備考

- 本項目が設定されていない場合、もしくは無効なファイル名が指定されている場合、RCFGManager は起動しません。

関連項目 なし

TRACE

概要 トレースログファイル名を設定します。

書式 **TRACE= トレースログファイル名**

- トレースログファイルを絶対パスまたは RCFGManager の本体のあるフォルダーからの相対パスで設定します。
- デフォルト値はありません。
- 初期値はありません。
- 本項目は必須項目ではありません。

設定例 1) トレースログを .\log\Trace.log に出力する場合
TRACE=.\log\Trace.log

備考

- トレースログを出力しない場合は本項目をコメントアウトしてください。
- 本項目を設定した場合には、動作パフォーマンスが低下しますので、ご注意ください。
- 通常、本項目を設定する必要はありません。導入時の動作確認や技術サポートへの情報を提供する場合などの必要なときにのみ設定してください。
- トレースログに出力される内容についてのお問い合わせにはお答えしかねますので、ご了承ください。

関連項目 なし

CHARSET

概要 コマンドアイテムでコマンド実行結果を表示する際の文字コード一覧を設定します。

書式 **CHARSET= 文字コード [, 文字コード][, …]**

- コマンドアイテム実行時の結果を表示する際の文字コード一覧を設定します。指定可能な文字コードは UTF-8、EUC-JP、Shift_JIS、US-ASCII の 4 種類です。
- デフォルト値はありません。
- 本項目は必須項目です。
- 初期値は「UTF-8,EUC-JP,Shift_JIS,US-ASCII」です。

設定例 1) 文字コード一覧に UTF-8、EUC-JP、Shift_JIS、US-ASCII を設定する場合
CHARSET=UTF-8,EUC-JP,Shift_JIS,US-ASCII

備考 • 文字コードに UTF-8、EUC-JP、Shift_JIS、US-ASCII 以外を指定することはできません。
• コマンドアイテムの文字コード一覧は、本項目で設定した文字コードの順番で表示されます。

関連項目 <item>(コマンドアイテム)(設定 XML ファイル)

CONNECTIONTIMEOUT

概要 RCFGAgent との通信時の接続タイムアウト時間を設定します。

書式 **CONNECTIONTIMEOUT= タイムアウト時間 (秒)**

- タイムアウト時間は 1 ～ 60 の範囲で設定してください。
- タイムアウト値の単位は秒 (second) です。
- デフォルト値は 5 秒です。
- 初期値は 5 秒です。
- 本項目は必須項目ではありません。

設定例 1) RCFGAgent との通信時の接続タイムアウト時間を 5 秒に設定する場合
CONNECTIONTIMEOUT=5

備考

- 設定可能範囲外の値が設定された場合はデフォルト値として 5 秒が使用されます。
- CONNECTIONTIMEOUT にオペレーティングシステムで設定された通信のタイムアウトより長い時間を指定しても、オペレーティングシステムで設定された時間が適用されます。オペレーティングシステムで設定された時間より長い時間を設定することはできません。

関連項目 なし

14.2 設定 XML ファイル

概要	各バックエンド Web サーバーに対する固有の設定を行う設定ファイルです。 設定可能な項目は以下のとおりです。
格納場所	標準の格納場所は以下のとおりです。 C:\Program Files\HP\IWRCM\xml\ <設定 XML ファイル名>
注意事項	なし
フォーマット	<pre><?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?> <group name="IceWall RCM" expand=" ツリー表示状態 " key=" 暗号化済みエージェントキー "> <group name=" フォルダー名称 " expand=" ツリー表示状態 "> <item name=" ファイルアイテム名称 " remoteAddr=" ホスト : ポート番号 " attribute="1" comment="コメント" remotePath="サーバー上のファイルパス" breakConv="改行コード変換" localAppPath="ファイルを開くアプリケーションパス" readOnly="読み取り専用属性" /> <item name=" コマンドアイテム名称 " remoteAddr=" ホスト : ポート番号 " attribute="2" comment=" コメント " remotePath=" サーバー上で実行するコマンド " /> </group> </group></pre>
備考	管理者は管理者モードで RCFGManager を動作させることにより、設定 XML ファイルを作成することができます。 オペレーターモードでは設定 XML ファイルを作成することはできません。オペレーターモードではあらかじめ作成された設定 XML ファイルを読み込みます。 オペレーターモードで読み込む設定 XML ファイルの名前は < Windows にログインしているユーザー名 > @ < ローカルコンピュータ名、もしくは Windows ドメイン名 > IWRCMConfig.xml です。

IWRCMConfigSample.XML はサンプルの設定 XML ファイルです。

次ページより各項目について解説を行います。

<group> (ルートノード)

概要

ルートノードを表す要素です。
最上位の <group> 要素はルートノードを表し、key 属性にエージェントと通信する際に必要なエージェントキーを暗号化して持ちます。

書式

<group name="IceWall RCM" expand=" ツリー表示状態 " key=" 暗号化済みエージェントキー ">

最上位の <group> 要素は以下の属性を持ちます

属性名	必須	概要
name	○	名前を表す属性です。「IceWall RCM」固定です。
expand	×	ルートノードを開いた状態で表示する場合は「1」を指定します。閉じた状態で表示する場合は「0」を指定します。
key	○	最上位の <group> のみが key 属性を持ちます。 key 属性には RCFGManager が RCFGAgent と通信する際に必要になるエージェントキーが暗号化されて保存されます。 エージェントキーを変更する方法は「12.7 エージェントキーの設定」を参照してください。

設定例

1) フォルダー名称: 「IceWall RCM」、ツリー表示状態: 展開 の場合
<group name="IceWall RCM" expand="1" key="xxxxxxxxx">
</group>

備考

- 最上位の <group> 要素は以下の要素を子要素に持ちます。

要素名	必須	概要
<group>	×	フォルダーアイテムを表す要素
<item>	×	コマンドアイテム、もしくはファイルアイテムを表す要素

関連項目

AGENTKEY(RCFGAgent 設定ファイル)

設定 XML ファイル

<group> (フォルダーアイテム)

概要 フォルダーアイテムを表す要素です。

書式 <group name=" フォルダー名称 " expand=" ツリー表示状態 " >

<group> 要素に設定できる属性は次のとおりです。

属性名	必須	概要
name	○	名前を表す属性です。 同じ階層に同じ name 属性を持つ<group>もしくは<item>要素を作成することはできません。
expand	×	フォルダーアイテムを開いた状態で表示する場合は「1」を指定します。閉じた状態で表示する場合は「0」を指定します。

設定例 1) フォルダー名称:「フォルダー」、ツリー表示状態: 展開 の場合

```
<group name=" フォルダー " expand="1" >
</group>
```

備考 • <group> 要素は以下の要素を子要素に持ちます。

要素名	必須	概要
<group>	×	フォルダーアイテムを表す要素
<item>	×	コマンドアイテム、もしくはファイルアイテムを表す要素

関連項目 なし

<item> (ファイルアイテム)

概要 ファイルアイテムを表す要素です。

書式 **<item name=" ファイルアイテム名称 " remoteAddr=" ホスト : ポート番号 " attribute="1" comment=" コメント " remotePath=" サーバー上のファイルパス " breakConv=" 改行コード変換 " localAppPath=" ファイルを開くアプリケーションパス " readOnly=" 読み取り専用属性 " />**

<item> (ファイルアイテム) 要素に設定できる属性は次のとおりです。

属性名	必須	概要
name	○	ファイルアイテムの名前を表す属性です。 同じ階層に同じ name 属性を持つ<group>もしくは<item>要素を作成することはできません。
remoteAddr	○	通信先ホストのリモートアドレスを表す属性です。 通信先ホストのリモートアドレスは「ホスト名 : ポート番号」の形式で保存されます。
attribute	○	ファイルアイテムを表す属性です。 「1」はファイルアイテムを表します。
comment	×	コメントを表す属性です。
remotePath	○	取得、表示を行うファイルの、サーバー上の絶対パスを表します。
breakConv	○	通信先ホストからファイルを取得する際に改行コードの変換を行うかどうかを表す属性です。 「0」は改行コード変換を行わないことを表します。 「1」は改行コード変換を行うことを表します。 改行コード変換を行うように指定されている場合、RCFGManager は指定されたファイルを通じて通信先ホストから取得時に Unix 改行 (LF) を PC 改行 (CR LF) に変換します。 また改行コード変換を行った場合、配布時に改行コードを元に戻します。
localAppPath	×	ファイルアイテムの場合に通信先ホストから取得したファイルを編集、閲覧するためのローカルのプログラムのフルパスを表す属性です。

設定 XML ファイル

属性名	必須	概要
readOnly	○	通信先ホストから取得したファイルを読み取り専用として扱うかを表す属性です。 「0」はファイルアイテムが編集可能であることを表します。 「1」はファイルアイテムが読み取り専用であることを表します。

設定例

1) 以下の設定の場合

- ファイルアイテム名称: 「認証モジュール設定ファイル」
- ホスト: 「cert1:15000」
- アイテムの種類: ファイルアイテム
- コメント: 「認証モジュール設定ファイル その 1」
- サーバー上のファイルパス: 「/opt/icewall-ssso/certd/config/cert.conf」
- 改行コード変換: 変換あり
- ファイルを開くアプリケーションパス: 「C:\Windows\System32\notepad.exe」
- 読み取り専用属性: 編集可能

<item name=" 認証モジュール設定ファイル "

**remoteAddr="cert1:15000" attribute="1" comment=" 認証モジュール
設定ファイル その 1 " remotePath="/opt/icewall-ssso/certd/config/
cert.conf" breakConv="1" localAppPath="C:\Win-
dows\System32\notepad.exe" readOnly="0" />**

備考

なし

関連項目

なし

<item> (コマンドアイテム)

概要 コマンドアイテムを表す要素です。

書式 **<item name=" コマンドアイテム名称 " remoteAddr=" ホスト : ポート番号 " attribute="2" comment=" コメント " remotePath=" サーバー上で実行するコマンド " />**

<item> (コマンドアイテム) 要素に設定できる属性は次のとおりです。

属性名	必須	概要
name	○	コマンドアイテムの名前を表す属性です。 同じ階層に同じ name 属性を持つ <group> もしくは <item> 要素を作成することはできません。
remoteAddr	○	通信先ホストのリモートアドレスを表す属性です。 通信先ホストのリモートアドレスは「ホスト名 : ポート番号」の形式で保存されます。
attribute	○	コマンドアイテムを表す属性です。 「2」はコマンドアイテムを表します。
comment	×	コメントを表す属性です。
remotePath	○	通信先ホスト上で実行されるコマンド文字列を表します。
charSet	○	コマンドアイテムの場合に通信先ホストから取得したコマンドの実行結果を表示する際に使用する文字コードを指定します。 指定できる文字コードは、RCM 設定ファイルの CHARSET 項目に指定された文字コードのうち、いずれかです。大文字、小文字は区別されません。

設定例

1) 以下の設定の場合

- ・ コマンドアイテム名称 : 「認証モジュールの起動」
- ・ ホスト : 「cert1:15000」
- ・ アイテムの種類 : コマンドアイテム
- ・ コメント : 「認証モジュールの起動」
- ・ サーバー上で実行するコマンド : 「/opt/icewall-ssocertd/bin/start-cert」
- ・ 文字コード : 「us-ascii」

```
<item name=" 認証モジュールの起動 " remoteAddr="cert1:15000"
attribute="2" comment=" 認証モジュールの起動 " remotePath="/opt/
icewall-ssocertd/bin/start-cert" charSet="us-ascii" />
```

設定 XML ファイル

備考 なし

関連項目 CHARSET(RCM 設定ファイル)

15 ログメッセージ一覧

15.1 RCFGAgent のログメッセージ一覧

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
CA0127	Fatal	AGENTKEY Error. request AGENTKEY = %s	エージェントキーが正しくありません。 出力される値：受信したエージェントキーの値
CA0132	Fatal	Request Operation Error.	オペレーションコードが正しくありません。
CA0424	Fatal	AGENTKEY not Found.	エージェントキーが指定されていません。
CA0502	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA0504	Fatal	CM_CreateBuf Error.	Buffer 構造体の生成処理でエラーが発生しました。
CA0513	Fatal	Header Error. Header = %s	ヘッダー情報が正しくありません。 出力される値：受信したヘッダー情報
CA0515	Fatal	Version Error. Version = %s	バージョン情報が正しくありません。 出力される値：受信したバージョン情報
CA0517	Fatal	BodyLength Error. BodyLength = %d	ボディ部のサイズが正しくありません。 出力される値：受信したボディ部のサイズ
CA0602	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA0604	Fatal	CM_CreateBuf Error.	Buffer 構造体の生成処理でエラーが発生しました。
CA0611	Fatal	Request Crypto Error.	データの復号化処理でエラーが発生しました。
CA0614	Fatal	DataSize Error. DataSize = %d	受信データのサイズが正しくありません。 出力される値：受信データのサイズ
CA0618	Fatal	CM_SetBuf Error.	Buffer 構造体のデータセット処理でエラーが発生しました。
CA0702	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA0705	Fatal	Request read Error. error = %s	リクエストの読み込みでエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA0709	Fatal	CM_SetBuf Error.	Buffer 構造体のデータセット処理でエラーが発生しました。
CA0802	Fatal	stdin select Error. error = %s	select でエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1002	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA1005	Fatal	Request Format Error.	リクエストのフォーマットが正しくありません。

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
CA1102	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA1202	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA1302	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA1306	Fatal	tempfile create Error. error = %s	テンポラリファイルの作成処理でエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1402	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA1404	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA1407	Fatal	Command execute Error.	コマンド実行でエラーが発生しました。
CA1502	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA1504	Fatal	File Open Error. error = %s	ファイルのオープンでエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1506	Fatal	File Lock Error. error = %s	ファイルのロックでエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1508	Fatal	File Open Error. error = %s	ファイルのオープンでエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1510	Fatal	File Status Get Error. error = %s	ファイルの情報取得でエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1514	Fatal	File Read Error. error = %s	ファイルの読み込みでエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1516	Fatal	CM_SetBuf Error.	Buffer 構造体のデータセット処理でエラーが発生しました。
CA1602	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA1605	Fatal	Request Format Error.	リクエストのフォーマットが正しくありません。
CA1702	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA1802	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA1805	Fatal	Request Format Error.	リクエストのフォーマットが正しくありません。
CA1902	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA1904	Fatal	File Open Error. error = %s	ファイルのオープンでエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1907	Fatal	File Lock Error. error = %s	ファイルのロックでエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1910	Fatal	File Open Error. error = %s	ファイルのオープンでエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
CA1912	Fatal	File Status Get Error. error = %s	ファイルの情報取得でエラーが発生しました。 出力される値 : エラー原因の詳細メッセージ
CA1916	Fatal	File Read Error. error = %s	ファイルの読み込みでエラーが発生しました。 出力される値 : エラー原因の詳細メッセージ
CA1918	Fatal	CM_SetBuf Error.	Buffer 構造体のデータセット処理でエラーが発生しました。
CA2002	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA2005	Fatal	Request Format Error.	リクエストのフォーマットが正しくありません。
CA2008	Fatal	Request Format Error.	リクエストのフォーマットが正しくありません。
CA2102	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA2106	Fatal	File Open Error. error = %s	ファイルのオープンでエラーが発生しました。 出力される値 : エラー原因の詳細メッセージ
CA2108	Fatal	File Lock Error. error = %s	ファイルのロックでエラーが発生しました。 出力される値 : エラー原因の詳細メッセージ
CA2110	Fatal	File Open Error. error = %s	ファイルのオープンでエラーが発生しました。 出力される値 : エラー原因の詳細メッセージ
CA2112	Fatal	File Write Error. error = %s	ファイルの書き込みでエラーが発生しました。 出力される値 : エラー原因の詳細メッセージ
CA2202	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA2206	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA2208	Fatal	Response Crypto Error.	データの暗号化処理でエラーが発生しました。
CA2212	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA5102	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA5104	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA5106	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA5302	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA5402	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA5404	Fatal	CM_ExtendBuf Error.	Buffer 構造体の領域拡張処理でエラーが発生しました。
CA5502	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA5505	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA5602	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA5604	Fatal	CM_CreateBuf Error.	Buffer 構造体の生成処理でエラーが発生しました。

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
CA5802	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA5804	Fatal	CM_ClearBuf Error.	Buffer 構造体のクリア処理でエラーが発生しました。
CA6302	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA6304	Fatal	CM_CreateConfChain Error.	ConfChain 構造体の生成処理でエラーが発生しました。
CA6306	Fatal	CM_CreateConfChain Error.	ConfChain 構造体の生成処理でエラーが発生しました。
CA6502	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA6702	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA6704	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA6706	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA6708	Fatal	malloc Error.	メモリ領域の確保でエラーが発生しました。
CA6902	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA6904	Fatal	CM_CreateConfEntry Error.	ConfEntry 構造体の生成処理でエラーが発生しました。
CA7102	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA7701	Fatal	Illegal Argument Error.	引数パラメーターが正しくありません。
CA0106	Warning	CM_GetConfig Error.	コンフィグ読み込み処理でエラーが発生しました。
CA0110	Warning	CM_CreateTransData Error.	TransData 構造体の生成処理でエラーが発生しました。
CA0113	Warning	CM_CreateTransData Error.	TransData 構造体の生成処理でエラーが発生しました。
CA0116	Warning	CM_GetRequestHeader Error.	リクエストヘッダー部の受信処理でエラーが発生しました。
CA0120	Warning	CM_GetRequestBody Error.	リクエストボディ部の受信処理でエラーが発生しました。
CA0123	Warning	CM_GetRequestBody Error.	リクエストボディ部の受信処理でエラーが発生しました。
CA0208	Warning	CM_ParseConfig Error.	コンフィグ情報の解析処理でエラーが発生しました。
CA0407	Warning	CM_AddConfEntry Error.	Config 構造体へのエントリ追加処理でエラーが発生しました。
CA0411	Warning	Path Error. (Not Full Path) = %s	ALLOWDIR がフルパスで指定されていません。 出力される値 : ALLOWDIR に指定された値
CA0414	Warning	CM_AddConfEntry Error.	Config 構造体へのエントリ追加処理でエラーが発生しました。
CA0418	Warning	Path Error. (Not Full Path) = %s	DENYDIR がフルパスで指定されていません。 出力される値 : DENYDIR に指定された値
CA0506	Warning	CM_ReadRequestData Error.	リクエストの読み込み処理でエラーが発生しました。

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
CA0606	Warning	CM_ReadRequestData Error.	リクエストの読み込み処理でエラーが発生しました。
CA0707	Warning	Request read Error.(Found EOF).	想定したサイズのデータを読み込む前に EOF を検出しました。
CA0803	Warning	Request Timeout. wait = %d	select がタイムアウトしました。 出力される値 : タイムアウト値
CA1009	Warning	Check DirectoryName Format Error. (Not Full Path)	ディレクトリ名がフルパスで指定されていません。
CA1011	Warning	Check Permission Format Error.(Not Number)	検査対象パーミッションが数値で指定されていません。
CA1206	Warning	Check Command Format Error. (None)	実行コマンドが指定されていません。
CA1308	Warning	tempfile remove Error.	テンポラリファイルの削除処理でエラーが発生しました。
CA1310	Warning	tempfile remove Error.	テンポラリファイルの削除処理でエラーが発生しました。
CA1411	Warning	CM_SetBuf Error.	Buffer 構造体のデータセット処理でエラーが発生しました。
CA1413	Warning	CM_ReadTempfile Error.	テンポラリファイルの読み込み処理でエラーが発生しました。
CA1512	Warning	File Size Over Error.	ファイルサイズが読み込み可能なサイズを超えています。
CA1609	Warning	Check FileName Format Error. (Not Full Path)	ファイル名がフルパスで指定されていません。
CA1611	Warning	Check Permission Format Error.(Not Number)	検査対象パーミッションが数値で指定されていません。
CA1809	Warning	Get FileName Format Error. (Not Full Path)	ファイル名がフルパスで指定されていません。
CA1811	Warning	ReadOnly Flag Format Error. (Not Number)	読み込み専用フラグが数値で指定されていません。
CA1813	Warning	ReadOnly Flag Format Error. (Not 0 or 1)	読み込み専用フラグに範囲外の値が指定されています。
CA1815	Warning	Request Path Permission Error.	対象のファイルは取得が許可されていません。
CA1914	Warning	File Size Over Error.	ファイルサイズが読み込み可能なサイズを超えています。
CA2012	Warning	Put FileName Format Error. (Not Full Path)	ファイル名がフルパスで指定されていません。
CA2014	Warning	Force Flag Format Error. (Not Number)	新規作成フラグが数値で指定されていません。
CA2016	Warning	Force Flag Format Error. (Not 0 or 1)	新規作成フラグに範囲外の値が指定されています。
CA2018	Warning	Request Path Permission Error.	対象のファイルは更新が許可されていません。
CA7106	Warning	Request Path Permission Deny.	リクエストのパスが不許可ディレクトリ (DENYDIR) に該当しています。
CA0109	Info	*** Start Remote Configuration Manager Agent. ***	RCFGAgent の処理を開始します。
CA0111	Info	*** End Remote Configuration Manager Agent. ***	RCFGAgent の処理を終了します。
CA0114	Info	*** End Remote Configuration Manager Agent. ***	RCFGAgent の処理を終了します。
CA0117	Info	*** End Remote Configuration Manager Agent. ***	RCFGAgent の処理を終了します。

IceWall Remote Configuration Manager 4.0 /マニュアル

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
CA0122	Info	*** End Remote Configuration Manager Agent. ***	RCFGAgent の処理を終了します。
CA0124	Info	*** End Remote Configuration Manager Agent. ***	RCFGAgent の処理を終了します。
CA0128	Info	*** End Remote Configuration Manager Agent. ***	RCFGAgent の処理を終了します。
CA0131	Info	Request Operation = %s	オペレーションコードの出力。 出力される値：受信したオペレーションコード
CA0133	Info	*** End Remote Configuration Manager Agent. ***	RCFGAgent の処理を終了します。
CA0405	Info	AGENTKEY = %s	エージェントキーの出力。 出力される値：AGENTKEY に指定された値
CA0410	Info	ALLOWDIR = %s	ALLOWDIR の出力 出力される値：ALLOWDIR に指定された値
CA0417	Info	DENYDIR = %s	DENYDIR の出力 出力される値：DENYDIR に指定された値
CA0420	Info	Option File Item Error. Item = %s	無効な項目名が指定されています。 出力される値：無効な項目名
CA0422	Info	LOGLEVEL = %d	LOGLEVEL の出力 出力される値：LOGLEVEL に指定された値
CA0423	Info	LOGFILE = %s	LOGFILE の出力 出力される値：LOGFILE に指定された値
CA0613	Info	Request Crypto Success.	データの復号化処理が成功しました。
CA1004	Info	Start Directory Check.	ディレクトリのパーミッションチェック処理を行います。
CA1007	Info	Check DirectoryName = %s	ディレクトリ名の妥当性チェックを行います。 出力される値：受信したディレクトリ名
CA1008	Info	Check Permission = %s	検査対象パーミッションの妥当性チェックを行います。 出力される値：受信した検査対象パーミッション
CA1104	Info	Can not get the status of the target.(%s)	検査対象のステータス取得処理でエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1105	Info	Target is unauthorized.	ディレクトリに検査対象パーミッションで指定された権限がありません。(ディレクトリが存在しない)
CA1107	Info	Target is unauthorized.	ディレクトリに検査対象パーミッションで指定された権限がありません。(ディレクトリではない)
CA1109	Info	Existence Check.	ディレクトリの存在チェックを行います。
CA1110	Info	Target is an authority.	ディレクトリに検査対象パーミッションで指定された権限があります。

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
CA1112	Info	Target is unauthorized.	ディレクトリに検査対象パーミッションで指定された権限がありません。
CA1114	Info	Target is an authority.	ディレクトリに検査対象パーミッションで指定された権限があります。
CA1204	Info	Start Execute Command.	コマンドの実行処理を行います。
CA1205	Info	Execute Command = %s	実行コマンドの出力。 出力される値：受信した実行コマンド
CA1304	Info	time not get.	現在時刻の取得に失敗しました。
CA1409	Info	Shell Execute Success.	コマンド実行が成功しました。
CA1604	Info	Start File Check.	ファイルのパーミッションチェック処理を行います。
CA1607	Info	Check FileName = %s	ファイル名の妥当性チェックを行います。 出力される値：受信したファイル名
CA1608	Info	Check Permission = %s	検査対象パーミッションの妥当性チェックを行います。 出力される値：受信した検査対象パーミッション
CA1704	Info	Can not get the status of the target.(%s)	検査対象のステータス取得処理でエラーが発生しました。 出力される値：エラー原因の詳細メッセージ
CA1705	Info	Target is unauthorized.	ファイルに検査対象パーミッションで指定された権限がありません。(ファイルが存在しない)
CA1707	Info	Target is unauthorized.	ファイルに検査対象パーミッションで指定された権限がありません。(ファイルではない)
CA1709	Info	Existence Check.	ファイルの存在チェックを行います。
CA1710	Info	Target is an authority.	ファイルに検査対象パーミッションで指定された権限があります。
CA1712	Info	Target is unauthorized.	ファイルに検査対象パーミッションで指定された権限がありません。
CA1714	Info	Target is an authority.	ファイルに検査対象パーミッションで指定された権限があります。
CA1804	Info	Start File Get.	ファイルの取得処理を行います。
CA1807	Info	Get FileName = %s	取得対象ファイル名の出力。 出力される値：受信したファイル名
CA1808	Info	ReadOnly Flag = %s	読み込み専用フラグの出力。 出力される値：受信した読み込み専用フラグ
CA1817	Info	Directory Check Success.	対象のファイルは取得が許可されています。
CA1906	Info	not Read Only.	読み込み専用フラグは設定されていません。
CA1909	Info	Read Only.	読み込み専用フラグは設定されています。
CA1920	Info	File Get Success.	ファイルの取得処理が成功しました。

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
CA2004	Info	Start File Put.	ファイルの更新処理を行います。
CA2007	Info	Put FileName = %s	更新対象ファイル名の出力。 出力される値：受信したファイル名
CA2010	Info	Force Flag = %s	新規作成フラグの出力。 出力される値：受信した新規作成フラグ
CA2011	Info	File Data Size = %d	更新データサイズの出力。 出力される値：更新データのサイズ
CA2020	Info	Directory Check Success.	対象のファイルは更新が許可されています。
CA2104	Info	not Force Write.	新規作成フラグは設定されていません。
CA2105	Info	Force Write.	新規作成フラグは設定されています。
CA2116	Info	File Put Success.	ファイルの更新処理が成功しました。
CA2204	Info	Start Response.	レスポンス電文の生成処理を行います。
CA2210	Info	Response Crypto Success.	データの暗号化処理が成功しました。
CA2214	Info	Send Response.	レスポンス電文の送信を行います。
CA7202	Info	Read Check.	読み込みパーミッションチェックを行います。
CA7205	Info	Write Check.	書き込みパーミッションチェックを行います。
CA7208	Info	Execute Check.	実行パーミッションチェックを行います。

15.2 RCFGManager のログメッセージ一覧

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
ME00001	Error	予期しないエラーが発生しました。管理者にお問い合わせください。	予想するエラー対処に当てはまらないエラーすべてに関して、左記メッセージを表示します。
ME00005	Error	サーバー「{0}」のファイル「{1}」を操作する権限が十分にありません。管理者に権限の変更を依頼してください。	ファイル取得 / ファイル送信処理において、ALLOWDIR に含まれないパス / DENYDIR に含まれるパスを指定した場合、左記メッセージを表示します。 出力される値： {0}: エラーが発生したホスト（ホスト名とポート番号） {1}: ファイル取得 / 送信対象のファイルパス（サーバー上のパス）
ME00007	Error	サーバー「{0}」の応答がありません。サーバーのアドレスとポート番号が正しいことを確認してください。正しい場合、サーバーが正常に動作していない可能性があります。管理者にお問い合わせください。	通信時に接続タイムアウトが発生した場合、左記メッセージを表示します。 出力される値： {0}: タイムアウトが発生したホスト（ホスト名とポート番号）
ME00008	Error	サーバー「{0}」からのファイルの取得に失敗しました。取得するファイルパスが正しいことを確認してください。それらが正しい場合、サーバーが正常に動作していない可能性があります。管理者にお問い合わせください。	ファイルパーミッション確認、ディレクトリパーミッション確認、ファイル取得、取得したファイルを保存して表示します。処理のいずれかでエラーが発生した場合、左記メッセージを表示し、ログファイルに詳細なエラー内容出力します。 出力される値： {0}: エラーが発生したホスト（ホスト名とポート番号）
ME00011	Error	サーバー「{0}」でコマンド実行に失敗しました。実行するコマンドパスが正しいことを確認してください。正しい場合、サーバーが正常に動作していない可能性があります。管理者にお問い合わせください。	コマンド実行時（ファイル編集のファイルバックアップ処理を除く）にエラーが発生した場合、左記メッセージを表示し、詳細なエラー内容をログ出力します。 出力される値： {0}: エラーが発生したホスト（ホスト名とポート番号）
ME00014	Error	{0} 処理中にエラーが発生しました。	エラー発生時の汎用的なメッセージ。 ・通信時に、電文内容ではなく通信処理自体でエラーが発生した場合（タイムアウトを除く）に、左記メッセージを表示します。 ・ファイル編集実行時、ファイル編集後、ファイル送信時に一時ファイル読み取りに失敗した場合、左記メッセージを表示します。 出力される値： {0}: エラーが発生した処理名

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
ME00016	Error	設定ファイル「{0}」が存在しません。アプリケーションを終了します。	以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・RCM 設定ファイルが存在しない場合 ・オペレーターモードで起動する場合で、ユーザー用の設定 XML ファイルが存在しない場合 ・[設定の読み込み] メニューから設定 XML ファイル読み込み時、読み取りエラーが発生した場合 出力される値： {0}: 設定ファイルのパス
ME00017	Error	RCM 設定ファイルに {0} の設定が見つかりません。アプリケーションを終了します。	RCM 設定ファイルの ERROR 項目、または CHARSET 項目が正しく設定されていなかった場合、左記メッセージを表示します。 出力される値： {0}: エラーが発生した項目名
ME00018	Error	設定ファイル「{0}」の書式が不正です。アプリケーションを終了します。管理者に設定ファイルの修正を依頼してください。	オペレーターモードで起動する場合で、ユーザー用設定 XML ファイルを読み込んだ場合に、XML ファイルの書式にエラーがある場合、左記メッセージを表示します。 出力される値： {0}: 設定ファイル名
ME00039	Error	一時フォルダーが取得できません。	アプリケーションの一時フォルダー、またはキャッシュフォルダーのパスを取得できなかった場合（パスが 260 文字を超えた場合など）、左記メッセージを表示します。
ME00040	Error	{0}処理中にエラーが発生しました。(対象パス:{1})	ファイルパス操作のエラー発生時の汎用的なメッセージです。以下の場合に左記メッセージを表示します。 ・ファイル表示 / 編集時、一時ファイルのパスからディレクトリ名が取得できない場合 ・ファイル表示 / 編集時、一時ファイルの保存に失敗した場合 ・ファイル編集時、送信用一時ファイルの読み取りに失敗した場合 ・ファイル編集時、[ファイル送信エラー一覧] 画面でファイルの保存に失敗した場合 ・アプリケーション起動時、キャッシュフォルダーのクリアに失敗した場合 ・メニューまたはアプリケーション終了時の保存確認から設定 XML ファイル保存時、設定 XML ファイルの保存に失敗した場合 ・ファイル表示時、一時ファイルに読み取り属性設定を行い、失敗した場合 ・ファイル表示 / 編集時、選択したアプリケーションでファイルを表示するのに失敗した場合 出力される値： {0}: エラーが発生した処理名 {1}: エラーが発生したパス
ME00043	Error	証跡ログ出力時にエラーが発生しました。アプリケーションを終了します。 {0}	アプリケーション起動時または通信時に証跡ログ出力に失敗した場合、左記メッセージを表示します。 出力される値： {0}: エラー内容
ME00045	Error	リモートサーバーで入出力エラーが発生しました。(エラーコード: 00001)	ファイル編集の処理のうち、ファイルバックアップまたはファイル送信処理時にサーバーのレスポンス 00001(入出力エラー) が返ってきた場合、左記メッセージを表示します。

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
ME00046	Error	リモートサーバーで権限エラーが発生しました。(エラーコード: 00002)	ファイル編集の処理のうち、ファイルバックアップまたはファイル送信処理時にサーバーのレスポンス 00002(権限エラー)が返ってきた場合、左記メッセージを表示します。
ME00047	Error	リモートサーバーでパラメーターエラーが発生しました。(エラーコード: 00003)	ファイル編集の処理のうち、ファイルバックアップまたはファイル送信処理時にサーバーのレスポンス 00003(パラメーターエラー)が返ってきた場合、左記メッセージを表示します。
ME00048	Error	リモートサーバーでフォーマットエラーが発生しました。(エラーコード: 00004)	ファイル編集の処理のうち、ファイルバックアップまたはファイル送信処理時にサーバーのレスポンス 00004(電文フォーマットエラー)が返ってきた場合、左記メッセージを表示します。
ME00049	Error	リモートサーバーで内部エラーが発生しました。(エラーコード: 00005)	ファイル編集の処理のうち、ファイルバックアップまたはファイル送信処理時にサーバーのレスポンス 00005(プログラム内部エラー)が返ってきた場合、左記メッセージを表示します。
ME00050	Error	リモートサーバーでその他のエラーが発生しました。(エラーコード: {0})	ファイル編集の処理のうち、ファイルバックアップまたはファイル送信処理時にサーバーのレスポンス 00010(その他のエラー)が返ってきた場合、左記メッセージを表示します。 出力される値: {0}: エラーコード
ME00052	Error	リモートサーバーへの接続に失敗しました。	接続タイムアウトが発生した場合、左記メッセージを出力します。
ME00053	Error	リモートサーバーへの接続が切断されました。	接続の切断または拒否が発生した場合、左記メッセージを出力します。
ME00060	Error	受信したレスポンスデータが不正です。	レスポンスのヘッダー、バージョン、エージェントキーがクライアントのそれと一致しない場合、左記メッセージを表示します。
ME00061	Error	受信したレスポンスデータのボディサイズが不正です。{0}	受信したレスポンスのボディ長が 61 より小さい場合、左記メッセージを表示します。 出力される値: {0}: 受信したボディ長
ME00063	Error	受信したレスポンスデータのデータ部に区切り文字がありません。{0}	コマンド実行時、受信したレスポンスデータのデータ部に区切り文字 \0 が見つからない場合、左記メッセージを表示します。 出力される値: {0}: 区切り文字の検索結果 (区切り文字の位置)
MW00009	Warning	ファイル「{0}」に関連付けられたアプリケーションがありません。ファイルを表示します。ためのアプリケーションを選択してください。	ファイル表示時、取得したファイルの拡張子に関連付けられたアプリケーションがない場合、もしくは拡張子がない場合、左記メッセージを表示します。 出力される値: {0}: 表示対象の一時ファイル名
MW00013	Warning	すでに同じアイテム名「{0}」が存在します。異なるアイテム名を指定してください。	設定 XML ファイルを読み込む場合 ([設定の読み込み] メニュー、またはオペレーターモードの初期起動)において、XML の同階層に同じアイテム名が存在する場合、左記メッセージを表示します。 出力される値: {0}: 名称が重複したアイテム名

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
MW00019	Warning	設定ファイル「{0}」の書式が不正です。 読み込みを中断します。 {1}	[設定の読み込み]メニューから設定XMLファイルを読み込んだ場合に、XMLファイルの書式にエラーがある場合 (XML 解析クラス使用時に例外が発生した場合)、もしくは設定値に問題がある場合、左記メッセージを表示します。 出力される値： {0}: 設定ファイル名 {1}: エラー内容
MW00021	Warning	値を設定してください。	以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・ [ファイルアイテム] 画面、[コマンドアイテム] 画面、[フォルダーアイテム] 画面、[エージェントキー] 画面において、必須項目のテキストボックスに値が入力されていない場合 ・ [コマンドアイテム] 画面において、文字コードが選択されていない場合 ・ 設定 XML ファイルを読み込む場合 ([設定の読み込み]メニュー、またはオペレーターモードの初期起動) において、xml の必須の属性が存在しない場合、または必須の属性の値がない場合
MW00022	Warning	{0} 文字以内で入力してください。	設定 XML ファイルを読み込む場合 ([設定の読み込み]メニュー、またはオペレーターモードの初期起動) において、xml の属性の値が最大の文字数を超過している場合、左記メッセージを表示します。 出力される値： {0}: 最大文字数
MW00023	Warning	以下のいずれかの値を指定してください： {0}	設定 XML ファイルを読み込み時 ([設定の読み込み]メニュー、またはオペレーターモードの初期起動)、以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・ 文字コードに、RCM 設定ファイルの CHARSET 項目で指定されていない文字コードが指定されている場合 ・ 改行コード変換、表示用 / 編集用指定において、0,1 以外の値が指定されている場合 出力される値： {0}: 選択しうる候補
MW00024	Warning	「ホスト名：ポート番号」の書式で指定してください。	以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・ [ファイルアイテム] 画面、[コマンドアイテム] 画面において、「:」で分割済みホストに「:」が含まれない場合、もしくは 2 つ以上「:」が含まれる場合 ・ [ファイルアイテム] 画面、[コマンドアイテム] 画面において、「:」で分割済みホストを「:」で分割し、「:」の前または後日の文字列が空白の場合 ・ 設定 XML ファイルを読み込み時 ([設定の読み込み]メニュー、またはオペレーターモードの初期起動)、上記と同様のエラーが存在した場合
MW00025	Warning	フォルダーの作成に失敗しました。(対象パス :{0})	一時フォルダー配下に IWRCM フォルダー、または Cache フォルダーが存在しない場合フォルダーを作成しようとするが、フォルダー作成に失敗した場合、左記メッセージを表示します。 出力される値： {0}: 対象フォルダーパス

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
MW00026	Warning	ポート番号は 0 から 65535 の整数で指定してください。	以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・ [ファイルアイテム] 画面、[コマンドアイテム] 画面の [OK] ボタン押下時、ポート番号に数値以外か、設定可能範囲 (0 ～ 65535) 外の値が指定されている場合 ・ 設定 XML ファイルを読み込み時 ([設定の読み込み] メニュー、またはオペレーターモードの初期起動)、上記と同様のエラーが存在した場合
MW00027	Warning	同一階層に同名のアイテムが存在します。名称を変更してください。	[ファイルアイテム] 画面、[コマンドアイテム] 画面、[フォルダーアイテム] 画面で [OK] ボタン押下時、アイテムを更新または作成しようとしている階層と同一階層に、同名のアイテムが存在する場合、左記メッセージを表示します。
MW00028	Warning	「/」で始まる絶対パスを指定してください。	以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・ [ファイルアイテム] 画面の [OK] ボタン押下時、ファイルパスが「/」で始まっていない場合 ・ 設定 XML ファイルを読み込み時 ([設定の読み込み] メニュー、またはオペレーターモードの初期起動)、上記と同様のエラーが存在した場合
MW00029	Warning	いずれかの値を選択してください。	[ファイルアイテム] 画面の [OK] ボタン押下時、改行コード変換のいずれのラジオボタンも選択されていない場合、左記メッセージを表示します。
MW00030	Warning	入力内容にエラーがあります。アイコンが表示されている箇所について、エラー内容を確認してください。	編集画面 ([コマンドアイテム] 画面、[ファイルアイテム] 画面、[フォルダーアイテム] 画面、[エージェントキー] 画面) について、[OK] ボタン押下時に設定値にエラーが見つかった場合、左記メッセージを表示します。
MW00035	Warning	エージェントキーに使用できる文字は、英数字のみです。	以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・ [エージェントキー] 画面の [OK] ボタン押下時、エージェントキーに英数字以外の文字が指定された場合 ・ 設定 XML ファイルを読み込み時 ([設定の読み込み] メニュー、またはオペレーターモードの初期起動)、上記と同様のエラーが存在した場合
MW00036	Warning	使用可能なホスト数の上限を越えています。 制限版で指定可能なホスト数は全体で {0} 件までです。	以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・ 管理対象数制限版の場合で、[ファイルアイテム] 画面、[コマンドアイテム] 画面で [OK] ボタン押下時、ホストで指定されたサーバーの数が制限数を越えた場合 ・ 設定 XML ファイルを読み込み時 ([設定の読み込み] メニュー、またはオペレーターモードの初期起動)、上記と同様のエラーが存在した場合 出力される値： {0}: 指定可能最大サーバー数
MW00041	Warning	ファイル操作時にエラーが発生しました。	以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・ アプリケーション起動時、アプリケーション初期化ファイルの読み取りに失敗した場合 ・ アプリケーション起動時、RCM 設定ファイルの読み取りに失敗した場合 ・ アプリケーション終了時、アプリケーション初期化ファイルの出力に失敗した場合 ・ 設定 XML ファイルを読み込み時 ([設定の読み込み] メニュー、またはオペレーターモードの初期起動)、設定 XML ファイルの読み取りに失敗した場合

メッセージ ID	レベル	メッセージ内容	解説
MW00062	Warning	単一ホストのみ指定できます。	以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・ [コマンドアイテム] 画面の [OK] ボタン押下時、複数のホストが指定されている場合 ・ 設定 XML ファイルを読み込み時 ([設定の読み込み] メニュー、またはオペレーターモードの初期起動)、上記と同様のエラーが存在した場合
MW00066	Warning	相対パス表記は使用できません。	以下の場合、左記メッセージを表示します。 ・ [ファイルアイテム] 画面の [OK] ボタン押下時、ファイルパスに「./」「../」という表現が含まれる場合 ・ 設定 XML ファイルを読み込み時 ([設定の読み込み] メニュー、またはオペレーターモードの初期起動)、上記と同様のエラーが存在した場合